

# ライトフィット

地方都市に新規移住者を惹きつけ、  
定住してもらうために



世界各国の事例から得た地方移住のフレームワーク

ウィンストン・チャーチル・トラスト  
タリア・スタンプ



「彼らに難民というレッテルを貼ることはもうしません。難民と呼ばれた時期は過去のこと、私たちが今見るべきは未来です。そう考えることが彼らの助けになりますし、私たちの助けにもなるでしょう。そしてこのことは、新しい人々を受け入れる全地域にとっての鍵となります。つまり、未来を見つめること、彼らが持っているスキルに目を向けることです」

— マティアス・フェールンド、オーレ市、スウェーデン

## 「新規移住者」とは・・・

難民、庇護希望者、外国人、移民、新しく引っ越してきた人、新しく市民、友人、同僚、従業員などになった人を指します。

**世**界中の中小規模の地方都市が、人口減少と過疎化に直面しています。移住者たちはこの流れを変える力を持っていますが、多くの町は、彼らにとって魅力的な移住先になるために地域でどのような取り組みができるのか分からないと感じています。その町が求めているものを提供できる潜在的な移住者が国外にいるかもしれません。または、すでに国内の大都市に住んでいる移民や難民の背景を持つ人が、新しい土地に移り住むことに興味を示すかもしれません。地方移住はお互いがマッチすれば、地域社会にとっても新規移住者にとってもパワフルな未来を作り出す可能性を持っています。

世界には、移住を通じて人口減少を食い止めることに成功した町が数多くあります。2019年の3月から5月まで私はカナダや米国、ドイツ、ノルウェイ、スウェーデンの町々を訪れ、何が成功し、何が課題になっているかを学びました。私の研究はチャール・フェローシップの一環として実施されました。これまで、オーストラリアのニューサウスウェールズ州政府で難民や移民の地方定住をサポートしてきた経験に基づいて行っています。

この研究では調査結果に基づいて、新規移住者に地方都市の魅力を感じてもらい、定住してもらうためのフレームワークを紹介しています。地域社会の住民たち、選挙で選ばれた役人の方々、支援団体、雇用者などいずれの立場の人々にとっても、誘致戦略の立案から地域社会の発展までの各段階で役に立つよう制作しています。このフレームワークはこれまでの学びを反映し、多様な文脈で実施できる実践的な戦略を紹介しています。多くの事例は新規移住者の代表格であり、成長を望む地域社会が見逃しがちである難民に焦点を当てています。

このフレームワークは、「移住誘致戦略を成功させるためにやらなければいけないことリスト」ではありません。また手順を追って記載したリストでもありません。難民であれ、移民であれ、新しく市民になった人であれ、あらゆる新規移住者の誘致・定着は、長期的・集団的努力が必要な、行ったり来たり複雑で困難なプロセスです。もし地方都市が新規移住者の経済的・社会的貢献を十分に活用できれば、さまざまな面で利益を得ることができます。ビジネスの成長や、学校の維持や、新たなスポーツチームの結成などが期待でき、コミュニティが活気に満ちた生き生きとした場所になることでしょう。



# 研究範囲

この研究は、移民や難民の地方への誘致と定着を支援するための戦略を明らかにしようとするためのものです。2019年の3月から5月まで、カナダ、米国、ドイツ、ノルウェー、スウェーデンにおいて60以上の組織やステークホルダーの方々と、対面のインタビューやミーティングを実施しました。内訳は下記です：

- 3 連邦政府
- 6 州・県レベルの政府
- 8 地方自治体
- 7 ボランティア団体

- 13 教育機関やシンクタンク
- 12 ビジネスや商業サービス
- 13 移民・難民支援団体
- 39 新規移住者の難民や移民

新規移住者の誘致及び定着を経験した町については、異なる規模、人口構成、社会・政治的分脈やアプローチなど様々な側面から選定しました。



1. ハリファックス、ノバスコシア州、カナダ
2. フレデリクトン、ニューブランズウィック州、カナダ
3. オタワ、カナダ
4. ベルビル、オンタリオ州、カナダ
5. ゲルフ、オンタリオ州、カナダ
6. ミシサガ、オンタリオ州、カナダ
7. オーエン・サウンド、オンタリオ州、カナダ
8. セントジョセフ、ミネソタ州、米国
9. セントクラウド、ミネソタ州、米国
10. ミズーラ、モンタナ州、米国
11. ケンプテン、バイエルン州、ドイツ
12. インメンシュタット、バイエルン州、ドイツ
13. ソントホーフエン、バイエルン州、ドイツ
14. オーレ、イェムトランド県、スウェーデン
15. メルシル、イェムトランド県、スウェーデン
16. イェルペン、イェムトランド県、スウェーデン
17. ボードー、ヌールラン県、ノルウェー
18. スボルベル、ヌールラン県、ノルウェー
19. レクネス、ヌールラン県、ノルウェー
20. ランベルク、ヌールラン県、ノルウェー

# 目次

<b>セクション1: イントロダクション</b>	<b>2</b>
研究範囲	4
背景	7
オーストラリアの状況	8
<b>セクション2: フレームワーク</b>	<b>12</b>
新規移住者の誘致と定着の方法	14
<b>セクション3: 戦略を立てる</b>	<b>20</b>
計画を立てる	
コミュニティの合意を形成する	22
すでにあるものを活用する	25
つながる	
町をアピールする	30
個人の意思決定をサポートする	33
迎え入れる	
お互いを知る	36
仕事とスキルに注目する	42
包括的なアプローチを取る	46
住居に関するクリエイティブなアイデア	50
成長する	
家族の定着を支援する	52
目を配る	55
<b>セクション4: 政策提言</b>	<b>58</b>
提言	60
謝辞と参考文献	62
筆者について	63

# 世界はますます 都市化するのに、 都市はみんなのもの じゃない

**世**界中の地方都市は、その存続を脅かす人口減少に直面しています。出生率が低下し、若者たちは教育と職の機会を求め大都市に出ていきます。多くのコミュニティは働き手を見つけ、経済活気を維持するのに苦戦しています。一方で世界の都市は拡大し続けており、2030年には世界人口の60%を大都市が抱えると言われています<sup>1</sup>。移民はこの傾向を逆転させる一助になり得ますが、この可能性を実現させる正しい決定が本当になされているのでしょうか？

オーストラリアや国外における最近の政策決定では、移民をある一定期間地方都市に留ませ、期限がきたら移動できるというビザのインセンティブを強調しています。そのため、地域社会は移民や難民が留まり続けるような魅力を持っている必要があります。

同時に世界は今、前例を見ない国境を超える人々の移動を経験しています。多くの人々が紛争や戦争で土地を追われていて、その数は過去最高の7000万人にも上ります。ごく少数の幸運な人々だけが、安全で経済的に恵まれた国々に再定住することができるのです。難民の中には直接地方都市に辿り着く人々もいますが、大多数は一般的な人口流動のように大都市へと向かいます。難民にとって大都市は、家族や同じ文化的背景を持つ人々とつながれる機会を持つ場所です。このつながりは、特に到着した当

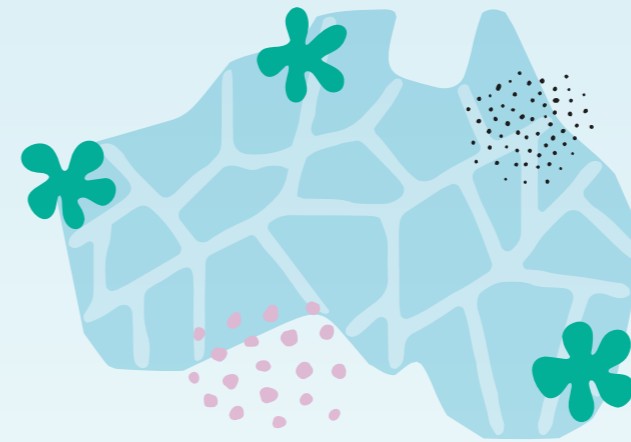
初においては経済的、実務的な援助を受ける上で重要な要素になります。また健康や、住まい、言語の習得など初期のニーズを満たす、専門的なサービスにもアクセスしやすいという利点もあるでしょう。

一方で一定期間を経ると、多くの人々は大都市が期待通りの場所ではないことに気づきます。職探しは困難で、住居費は高く、人々は社会的に断絶されています。地方都市は、魅力的な雇用機会や質の高い生活を提供することで、難民に温かい新天地を用意することができます。それでも大都市の難民は、田舎での暮らしがどのようなものか気づいておらず、仕事やそのほか機会にどのようにアクセスできるのかも知らないことが多いのです。

1. [www.un.org/en/development/desa/population/publications/pdf/urbanization/the\\_worlds\\_cities\\_in\\_2016\\_data\\_booklet.pdf](http://www.un.org/en/development/desa/population/publications/pdf/urbanization/the_worlds_cities_in_2016_data_booklet.pdf)

# オーストラリアの状況

移住者のおかげでオーストラリアの人口は増えて続けていますが、難民や移民の定住は大都市に偏っています。地方都市は、地元では補えない深刻なスキル不足や人手不足に直面しています。地元の労働力を形成し、起業家精神を支え、地域社会に貢献するためには移民の力が必要です。



**67%**  
オーストラリア  
国内で大都市に住  
む人の割合

**83%**  
国外で生まれた人  
で大都市に住む  
人の割合

**78,000人**  
2014-2019年の  
間にオーストラリア  
に到着した難民数

**15%**  
地方都市に  
定住する人の割合

**過** 去5年間で、オーストラリア国内の地方都市に定住した難民はわずか15%です。同時に、世界的な人口危機というメディアのイメージに動かされ、より多くの地方都市に住むオーストラリア人が、自分たちの土地に難民を呼び込もうとしています。難民の一次定住地としてオーストラリア政府によって承認されている地方センターは約15ヶ所。それらはほとんどが、人口10万人以上の比較的大きなコミュニティです。このリストに掲載されていない、より小さな町にとっても難民の定住は大きな関心事になっています。

必要とされるスキルと高い起業家精神を持っている難民であっても、その多くが労働市場で足掛かりを築くことができません。またそうでなくても自身が持っているスキル以下のレベルのポジションを受け入れざるを得ない状況にあります。首都圏での就職競争はさらに困難を極めます。

推定  
**6万件**  
オーストラリアの地方都市で募集中の求人<sup>2</sup>

**17%**  
オーストラリア滞在18ヶ月  
で職につく難民の割合<sup>3</sup>

**60%**  
以前の居住国で高いスキルの  
職に就いていた難民の割合。  
うちオーストラリアで同様の  
職に就くのは26%<sup>4</sup>

2. [www.apf.gov.au/Parliamentary\\_Business/Committees/Joint/Migration/RegionalMigration/Media\\_Releases](http://www.apf.gov.au/Parliamentary_Business/Committees/Joint/Migration/RegionalMigration/Media_Releases)

3. [www.dss.gov.au/our-responsibilities/families-and-children/programmes-services/building-a-new-life-in-australia-bnla-the-longitudinal-study-of-humanitarian-migrants](http://www.dss.gov.au/our-responsibilities/families-and-children/programmes-services/building-a-new-life-in-australia-bnla-the-longitudinal-study-of-humanitarian-migrants)

4. 47 Note: BNLA data based on primary and secondary applicants aged 18-65 where data is available for all variables included in the regression analysis for consistency. Data is unweighted. Source: Building a New Life in Australia, Longitudinal Study of humanitarian migrants, Wave 1 and 2 interviews responses, 2016; Personal Income of Migrants, Australia, 2011-12, ATO Data



## ぴったりのものを見つける

地方移住は、新規移住者と地域社会の両者にとってウィンウィンになり得ます。成功するかどうかは、新規移住者と地域コミュニティが求めるものとの間のマッチングにかかっています。

子どもの学校  
質の高い教育

雇用  
スキルの高い働き手

コミュニティ  
活気

手頃な住居  
投資

成長  
機会



新規移住者を惹きつけ、  
定住させるには

# 地方都市に新規移住者を 惹きつけ、定住させるために 必要なこと

下記のフレームワークは、移住を通して実際にコミュニティを成長させた世界の町から得た重要な教訓を記したものです。地方都市が新規移住者を惹きつけ、定住させるために必要な内容です。





## 計画

### コミュニティの合意形成を図る

- コミュニティに情報を提供して巻き込み、新規移住者の誘致を支援する

- 先人たちを尊重し、過去を受け入れる

### すでにあるものを活用する

- 町全体を巻き込んで協力的なネットワークを構築する
- 生きた経験を活用できるように、新規移住者を計画に加える
- 地域全体のリソースと専門知識を活用するために、地域横断アプローチを取る

## つながり

### 町をアピールする

- アピールポイントを強調するために、ターゲットを絞ったプロモーションを展開する
- 新たなオーディエンスを獲得するため、コミュニティで影響力を持つ人と協働する

### 個人の意思決定をサポートする

- 人々が選択肢を検討し、求めるものを理解する手助けをする
- 町を見て感じるができる探訪を行う
- テクノロジーを利用して距離を克服し、新規移住者と雇用者を結びつける



「95%のクライアントにとっては、雇用が最重要です。二番目は平穏な生活です。多くの移民や難民は大都市からトロントへ来ます。彼らは大都市に圧倒され、変化を求めてやってくるのです。ですから小さなコミュニティに働き口があれば、そこで幸せを感じることができるでしょう」

— タニア・マキシメンコ、ピールニューカマーセンター、カナダ



「私たちがここで決めたことは、全新規移住者がこの町にとって財産だということです。この地域にはもっと人が必要です。企業はより多くの労働力を必要としていますから、私たちにとって良いことなのです。負担ではなく、リソースです」

—マティアス・フェールンド、オーレ市、スウェーデン

## 受け入れ



## 受け入れ

### お互いを知る

- コミュニティ全体を巻き込み善意を育てる
- 社会的なつながりが持てるミーティングスペースを作る
- ストーリーテリングの力を使って、サポートを生み出す

### 仕事とスキルに注目する

- 新規移住者を採用し、支援するように雇用主に働きかける
- お互いにとって良い採用になるよう、新規移住者のスキルを活用・評価する

### 包括的なアプローチを取る

- 差別をなくし、多様性を後押しするサービスを構築する
- 新規移住者が制度を使いこなし、相談窓口を理解する手助けをする



## 成長

## 成長

### 家族の定着を支援する

- 家族の定住のため、子どもと若者に投資する
- 配偶者に働きかけ、社会的・経済的参加を促す

### 目を配る

- 困りごとを聞き入れ、俊敏に対応するための安全な場所を提供する
- 計画通りにいかなかった場合のコミュニティの期待値を管理する

## 実践的なフレームワーク： 画期的な実例と ケーススタディ

ここでは戦略を実現するために、画期的な実例を用いてより詳細にフレームワークを見ていきます。様々な段階にある地方都市が誘致と定住の取り組みを開発し、実行していく上で、彼らにインスピレーションや新たなアイデアを与えることを目的としています。



# 計画を立てる



人口問題に関しては、迅速で簡単な解決策はありません。どんな魅力的な誘致戦略も変化の必要性を認め、受け入れることから始まります。そして、行政、地域社会のリーダー、企業、市民社会などあらゆるレベルの人たちを巻き込み、機能させる必要があります。

コミュニティは個々の新規移住者たちを、町を維持・成長させるために切実に必要とされているスキル、労働力、資質を持った人材とみなす必要があります。特に難民においては、支援と保護が必要な人々という色眼鏡で捉えられがちです。

## → コミュニティの合意形成を図る

危機や緊急性は新しいアイデアやイノベーションを受け入れる強力なきっかけとなり得ます。シリア危機を契機に新規移住者の誘致に乗り出した町もあれば、危機的な労働力不足が引き金になった街もあります。始まりが何であれ、誘致と定住が最も成功するのは、移住者がもたらす恩恵について、コミュニティでの強い合意が得られている場合です。



地域社会が直面している人口問題について現実を理解すれば、その要因が出生率の低下であれ、高齢化や労働力不足や他の問題の影響であれ、新規移住者の誘致と定住戦略を真剣に考えるようになります。

## 1. 地域社会への情報共有と参画

コミュニティ内でのミーティングは、地域住民に情報を提供し、参加を促す強力な手段となります。全員が新規移住者の必要性について合意しなくても、ミーティングはそのプロセスに参画する機会を与え、質問したり、懸念を表明したり、戦略を前に進めるための共有ビジョンを策定する場を提供します。

### ビジネス分野からのリーダーシップ

#### グエルフ、カナダ

オンタリオ州のグエルフで、ジム・エスティルは2015年のシリア戦争のニュースに心動かされました。数百万ドルの家電会社のCEOであるジムは、地元の宗教団体やコミュニティ団体でチームを作り、壮大なプランを立てました。町を再び活気づけ、難民の支援を目的とした再定住イニシアティブです。新たな人材に飢え、低い失業率と労働力不足に陥るコミュニティにおいて、エスティルのメッセージはシンプルでした。「これは難民のための正しい行いであり、あなたたちのビジネスにとっても正しい行いなのです」。

この計画の最初のステップは、100人以上が出席する開かれたコミュニティミーティングを継続的に開催することでした。エスティルの地域社会における地位は、幅広い層の地元住民を集める上で非常に重要でした。コミュニティミーティングでは、彼自身が先導して質問に答えたり、否定的な立場の人を説得したりと先導的な役割を果たしました。自身の仕事上のつながりを通じて、他の事業主たちを説得したり、コミュニティリーダーを巻き込んだりして、コミュニティ全体の支持をさらに大きくしました。

個人のアイデアはやがて町全体の共通のビジョンとなりました。4年後、100世帯近くが移住し、その多くが定住してフルタイムで働いています。

### #ImmigrationMatters

#ImmigrationMatters (移民は重要、の意) は、カナダ社会に移民がもたらす恩恵をアピールするカナダ政府のキャンペーンです。政府職員が全国に赴き、地域社会の人口ニーズや、コミュニティを発展させるために移民が果たした役割や今後果たしうる役割について地域社会と対話をします。各対話では、地域の人口動態の実態や、労働力不足に直面している産業に焦点を当ててプレゼンテーションが行われます。

「新しい人々が来ても怖がらないように、コミュニティの人々は今の状況が安全だと感じている必要があります。温かく迎え入れるためにこれが鍵となる要素なのです」

—ズデネック・ドヴォラック、ヌールラン県政府



## 学び

- コミュニティリーダーと「従来とは異なる」人たちが計画に参画し、サポートを構築する
- 町の経済状況と人口データを共有し、新規移住者の必要性とあらゆる人にとって有益であるという認識を構築する
- 先住民族のコミュニティとそのリーダーを最初から巻き込む
- 誘致戦略の中心に、スキルと労働力のギャップを据える
- 各段階で住民たちに情報を共有する

## すでにあるものを活用する

多くのコミュニティは誘致戦略を実行に移すことに関心がありますが、リソースが限られていると感じています。ですが、どのコミュニティにも起点となる何かしらのサービスやリソースやアセットがあります。コミュニティの強みは何か、を考えることから始めれば、すでにあるものを土台にすることができます。

### 1. 集団的なネットワークを構築する

新規移住者を誘致するのに成功した活気ある地方都市の多くが、ビジネスリーダーから一般市民、警察から公共医療サービス、学校から先住民の長老たちまで地域社会全体を巻き込んでいます。幅広い層の代表者たちがテーブルを囲むことで、うまくいっていること、今後取り組むべきことが明確になるのです。

新規移住者の誘致と定住は全地域社会のステークホルダーたちを巻き込んだ、一致団結したアクションと慎重な計画が必要になります。

#### フレデリクトン新規移住者パートナーシップ協議会

##### フレデリクトン、カナダ

フレデリクトンの人たちは、新規移住者の誘致と定住の緊急性を正確に把握していました。彼らはニュー・ブラウンズウィックという、カナダの中で最も人口減少が激しい州に住んでいます。2011年から2016年の間に、高齢化（65歳以上が2%を占める）、若者の人口流出、低出生率により、人口は0.5%減少しました。スキルを持つ働き手、持たない働き手もその不足は深刻で、地域経済とその都市の持続可能性に大きな影響を及ぼしています。

こうした課題を受けて、2015年にフレデリクト

ン新規移住者パートナーシップ協議会（NPC）が設立されました。イグナイト・フレデリクトン（Ignite Fredericton）という地元の経済開発機関主導によるNPCは、新規移住者の統合、定住をパートナーシップやコラボレーション、コミュニケーションを通じて改善させることを目的とした、さまざまなセクターからなる委員会です。この委員会は四半期ごとに開かれ、フレデリクトン市選出の議員と職員が共同議長を務めています。教育委員会、定住支援機関、警察、商工会議所、医療機関、大学、職業訓練機関、州政府など、コミュニティの多様なセクターから15人のメンバーが参加しています。

下記の7つの戦略分野を推進するため、地元の作業委員会はNPCに情報を提供しています：

1. 統合
2. 受け入れと安全なコミュニティ
3. 雇用とトレーニング
4. 子どもと若者
5. 起業家精神
6. 留学生の定着
7. 健康

NPCはフレデリクトンのコミュニティ、政府、企業を横断したコラボレーションとイノベーションの文化を創造するきっかけになりました。新規移住者の誘致と定住を市内での議論の主なトピックとし、イニシアチブやサービスを合理化し、より良い形になるよう調整しました。「受け入れ、援助する市」を構築するための施策は、今や市の25年成長戦略にも明記されています。フレデリクトン市は、受け入れ態勢のあるコミュニティが経済成長にプラスになることを明確に表明しているのです。



### 学び

- コミュニティのビジョンを設定し、全セクターを巻き込むメカニズムを創造すること
- 町の既存のアセットとリソースを見出し、それを活用すること
- 初期段階から地元の行政を巻き込むこと
- 新規移住者の誘致と定住の取り組みを、長期的な経済発展戦略と結びつけること

## 2. 過去を受け入れる

地方都市を歩いているときあなたがすれ違う人々の多くは、遠い昔もしくはごく最近のある時点で、よりよい人生を求めて国外から渡ってきた人たちです。自分たちがどこから来たかということや、コミュニティの現在は新規移住者たちのおかげであるということは見過ごされがちです。また地域のアイデンティティは、コミュニティ計画の一部として認知され、含まれるべきである先住民の人々によって形作られたものでもあります。

自分たちの出自を見失わず、過去の移民たちがもたらした貢献を重視する町の方が、新規移住者を受け入れやすいでしょう。

#### 「庇護」聞き覚えのあるコンセプト

##### オーバーアルゴイ、ドイツ

数百万人の難民たちがドイツに流れこんできた2015年、地元住民たちは第二次世界大戦に起こった大移動との関連から、突然の変化を理解しました。大量の難民がミュンヘンにたどり着いた後、バイエルン州中の郡が、集中を緩和するために各郡でも難民を受け入れるよう政府から指示を受けました。閑静な農村地域のオーバーアルゴイは当初、地元住民たちの反対に遭いました。ですが、驚くべきことが起こりました。何千というボランティアたちが難民を支援し、歓迎しようと呼びかけたのです。

「カリタス（Caritas）」という地元の難民支援団体でインテグレーション・プロジェクト・マネージャーを務めるアルミン・ルーフ博士は「私たちは『庇護』というコンセプトと深いつながりを持っています」と言います。「マイン・ゲマインデ（マイ・コミュニティ、の意）」プロジェクトでは、彼はオーバーアルゴイ中の町でコミュニティ・ディスカッションを開催し、情報を共有し、難民についての懸念事項を緩和するように努めました。「ドイツ人なら誰もが庇護が意味するところを知っています。ドイツ人が他の国に逃れて助けを求めたのはそう遠くない過去のこと。今はただ、逆の立場になっているだけです」。この地域の歴史を語ることは、住民たちの態度を変え、行動を引き起こすきっかけになりました。

#### コミュニティリーダーが支援構築を助けてくれる

##### ミズーラ、米国

2016年、米国ミズーラの町がアフリカ難民の再定住について検討したとき、複数の地元住民は彼らがどのようになじめるのかを危惧していました。町にとって急進的すぎるアイデアのように思えたのです。モンタナ州の中心に位置するその町に近年来ていたのは、その多くが国内の他の場所からの移住者でした。また先住民コミュニティ内での懸念もありました。この地域には、ネイティブ・アメリカンから土地を奪い、追い立て、排除をしてきた歴史があるので、外部から来た人をコミュニティに受け入れることに抵抗があったのです。コミュニティリーダーはこうした懸念に対応し、ミズーラの人々が共有する寛容で一体化した場所としてのアイデンティティをアピールする上で欠かせない存在でした。

ネイティブ・アメリカンのコミュニティリーダーの中には、難民を受け入れること、共通して持つ人間的価値を考えるよう他の人に呼び掛けることを、声に出して訴えるたちもいました。ジョン・エンゲン市長は、40年前には350人以上のモン族の難民がラオスから再定住したことを、ことあるごとに地元住民たちに思い出させました。

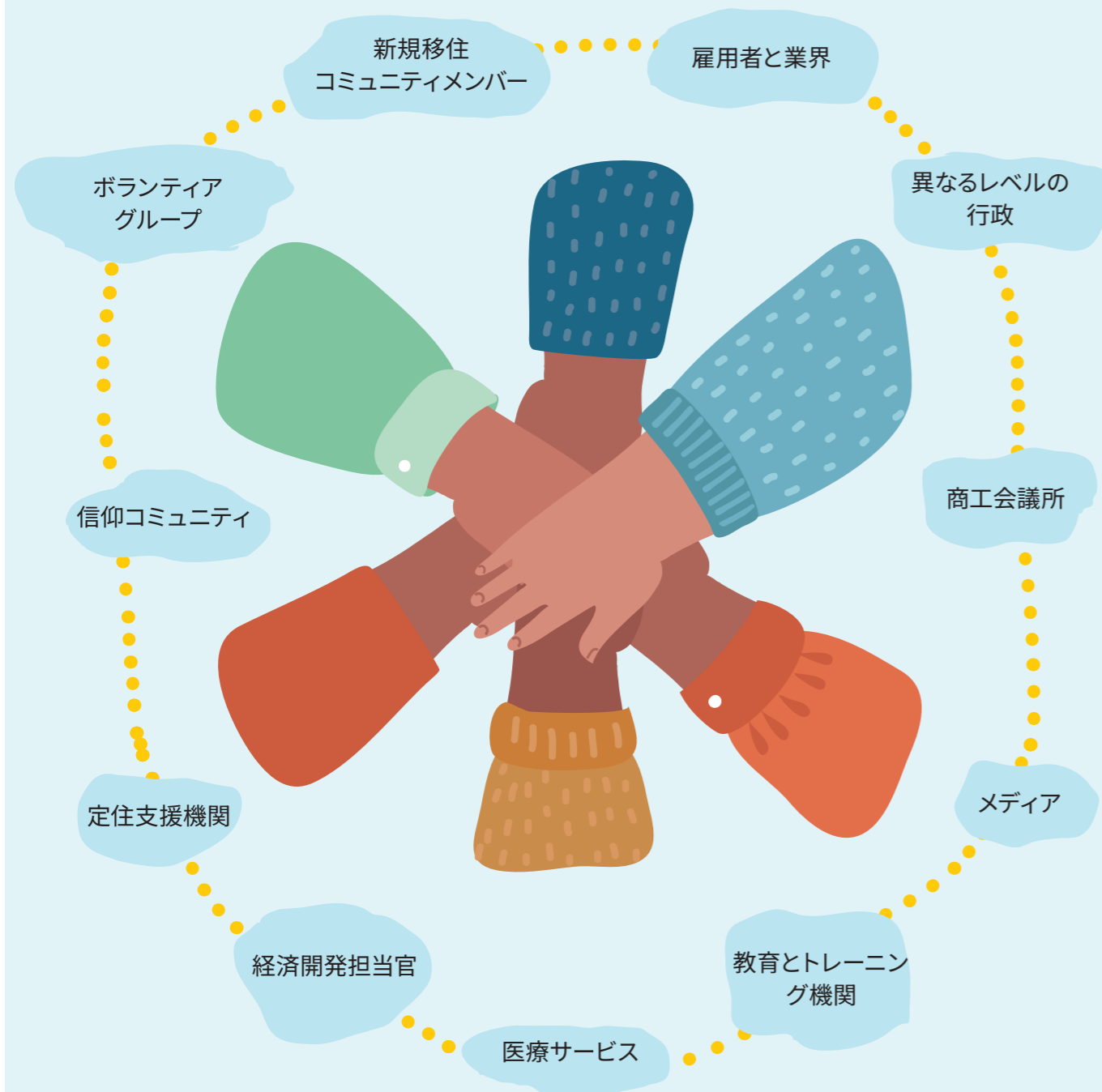
「ミズーラの人たちはコンゴの伝統がミズーラの伝統の一部になったことを忘れてしまう日が来るでしょう。ラオ族の伝統が私たちの一部になっていることを今日の私たちが忘れていくように、です。こうした難民の孫たちはいまやミズーラのファーマーズマーケットを代表する存在で、彼らの生産物は名高く、コミュニティへの貢献が広く認知され、称賛されているのです」

-ジョン・エンゲン市長

# パートナーシップの構築

「新規移住者の定住を支援し、彼らがこの場所をホームと呼べるようにするためには、あらゆるレベルの委員会で働きかけ、受け入れ態勢のあるコミュニティを作ることです。そして障壁を取り除くため、あらゆるレベルで連携することです」

—メイ・イツプ、ユナイテッドウェイ・オブ・ブルース・グレイ、カナダ



## 2. 計画に新規移住者を含める

新規移住者と話すことで、コミュニティの強みと弱みについての豊かでユニークな知見を得ることができます。最も効率的な誘致と定住の戦略は、彼らの相談に乗るだけでなく、計画や意思決定の議論に新規移住者を参加させることです。

コミュニティにいる既存の新規移住者を巻き込み、彼らの視点から何がうまくいっていて、どこにサービスのギャップがあるのかを理解しましょう。

### 新規移住者の第一印象調査

ヒューロン郡、カナダ

カナダのオンタリオ州ヒューロン郡では新規移住者の誘致戦略を策定する際、新規移住者に提供すべきことを明確にし、コミュニティ内で何が改善できるかを明確にするために外部の人間に参加してもらいました。郡では「新規移住者第一印象コミュニティ評価調査」(Newcomer First Impressions Community Evaluation survey、NFICE)を開発し、グエルフ近隣市に住む難民や移民をエクスターの小さな町に招待しました。参加者は二人一組になって食料品店から診療所まで地域の拠点を回り、調査に第一印象を記録し、その日の交流を振り返るよう求められました。

ここで得られた知見は、潜在的な新規移住者に好意的な第一印象を残すためにヒューロン郡が新しい戦略を開発する上で役立ちました。

また、新規移住者にとって再定住の決め手となる要因も明らかになりました。調査の参加者は全般的にエクスターを居心地の良い場所であると感じており、これはコミュニティが提供する中でも土台になるものとして評価できます。

驚くべきことに最も好印象だった要素の一つは、コミュニティがこれまで資産と認識していなかったデイケアの質でした。NFICEのおかげで、今ではデイケアを誘致活動の一環としてアピールしています。

### 新規移住者諮問委員会

セントクラウド、米国

ミネソタ州のセントクラウド市長は、市内の多様な移民と難民のコミュニティの代表者たちから成る諮問委員会を設立しました。「クリエイティブ・コミュニティ (Create CommUNITY)」と呼ばれるこの委員会は、人種差別やその他の人権問題に取り組むために始まりましたが、現在では教育、保健、住宅、地域社会との関係などの、制度的変革に焦点を当てる機構に成長しました。毎年開催している「人種についての対話」は今年で14回目を迎え、新規移住者、組織、企業、学校間の対話を開区ことで、セントクラウドにおける構造的な人種差別を解体するための強力なプラットフォームを提供してきました。



### 3. 地域横断アプローチ

小さい町や自治体はしばしば、新規移住者の誘致・定住イニシアチブを実行するのに必要なリソースへのアクセスに苦戦することがあります。地域全体の取り組みとして実施することで、地域社会は周辺地域の既存の専門知識やリソース、機会を活用できるようになるかもしれません。

イン・ミグレーション プロジェクト (The In-Migration Project、移住促進プロジェクト) – 5年で1万人の住民を

ヌールラン県、ノルウェー

ノルウェー北部のヌールラン県は2013年、自分たちが大きな問題を抱えていることに気づきました。ヌールランは3万8000平方キロメートルの土地に44の地方自治体があります。豊富な鉱物資源、漁業、観光業で知られるこの地域は、短期的な外国人労働力に頼りすぎていました。労働者は多くが東ヨーロッパ出身で、一度に数か月滞在した後、手にした給料とともに故郷に戻ります。地元の労働力は2030年までに40%以上が定年を迎えると予測されていたため、深刻な経済的問題を抱えていたのです。

自治体の中には若者を引き留めるのに努力をしているところもありましたが、ほとんどが成果につながりませんでした。自治体の規模と距離を考えると、自分たちで取り組むには限界がありました。さらに状況を複雑にしたのは、ほとんどの求人が低技能の肉体労働だったため、教育を受けたノルウェー人はその職に就きたがらなかったことでした。唯一残された選択肢は、新しい労働力を見つけることでした。

このような経緯から2013年にヌールラン県は「イン・ミグレーション・プロジェクト (移住促進プロジェクト)」を開始しました。2018年までに1万人の長期滞在者を呼び込むパイロットプログラムです。この取り組みの目的は、行政、企業、市民社会組織の連携を強化することで、地域の魅力について包括的に考えるように促すことでした。7つの自治体がパイロットに参加しました。

それぞれの地域プロジェクトは、フラクスタでの季節労働者確保プロジェクトからネスナでの難民向け農業イニシアチブまで、地域の資金援助を受けて実施されました。

「こうした小さな地方自治体では、問題は個人の生活にも影響してきます。私たちは50戸から100戸の小さなコミュニティで、うち30戸は普段は空き家で別荘として使われています。学校もなくなりました。コミュニティを活性化させるのは難しいのです。地域レベルなら、県全体でリソースや人々を考えることができるので活動しやすくなります」

– キルステン・スプリンガー・ハスヴォル、ヌールラン県前プロジェクト・コーディネーター

プログラムの成功は、地域全体の専門知識、リソースと機会を活用する能力にありました。参加した地方自治体全体で形成したメンタリングネットワークにより、学びの共有、町同士の連携の強化、成功例の紹介などが可能になりました。また、住宅不足といった大きな問題に取り組む際の共同解決策も生まれました。

2018年までには、プロジェクトは6300人の長期移住者と、それを上回る数の季節労働者の誘致に成功しました。まだまだ目標には達しておらず、人口も増えてはいませんが、ヌールランは少なくとも事態を安定させ、急速な衰退を食い止めることができました。

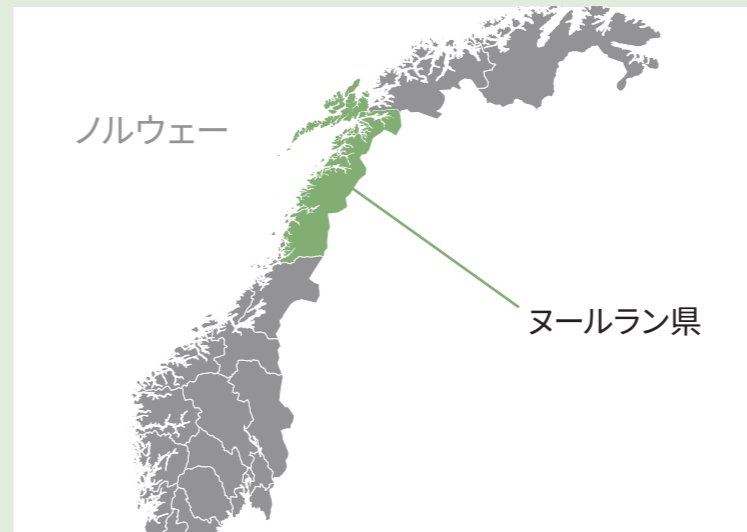


学び

- 地域全体で考えること。周辺の町とともに、地域全体の専門知識、能力、リソースを活用すること
- 雇用を計画し、異なる季節労働を組み合わせ、年単位での雇用ができるようにすること
- 地域で活用可能な定住資源を特定し、活用すること

注目:

## ヌールラン県 ノルウェー



3万8000平方キロメートルの土地にまたがる44の地方自治体

人口: 24万人

主要産業: 漁業、鉱物資源、観光業

世界のサーモン消費量の11%を養殖

2040年までに、純移動により4%の人口増加を予測

### 鍵となる学び

ヌールラン県が、永住のために必要なことについて季節移民労働者と意見交換をしたところ、安定的な仕事はその一部でしかないことが判明しました。「イン・ミグレーション・プロジェクト」は、当初スキル開発と言語トレーニングに焦点を当てた移住誘致イニシアチブでしたが、その重点を新規移住者の社会参画とインクルージョンにシフトしました。長期的な居住を考える上で、仕事以外の活動が重要であることが分かったからです。資金はボランティアやコミュニティ活動を支援するために振り分けられました。

「ここで重要なのは、私たちのコミュニティにどのように人々を引き留めるかです。ノルウェーの北にあるこの地域で分かったことは、難民や移民なくしては深刻な人口減少が起こるということでした。社会に悪影響を及ぼすほど人口が減っていきます。私たちの未来が危険にさらされているのです」

– クリスティン・ブロムストラント・コク、スボルベル



ヌールラン県のストーリー: p23, 28, 31, 32, 38, 39, 45~54

# つながり



地方都市と難民や移民を効果的につなげるには、それぞれが求めるものを明確にすることが重要です。新規移住者のスキル、特質、動機と、地方都市の社会的、経済的目標の理解に時間をかけることが正しいマッチングにつながります。

## 町をアピールする

「田舎とは何かを本当に理解してもらうためには、田舎を再定義する必要があります。例えば発展途上国から来た人にとってみれば、田舎とは水道や公共施設がないということを意味します。そこで私たちは、この町をトロントの縮小版として再定義しました。少し距離があるかもしれませんが、以前の職業や関連する職業につながる機会もあります」

— オリバー・ブライス、ピールニューカマーセンター、カナダ、カナダ

### 1. ターゲットを絞った宣伝キャンペーンの開発

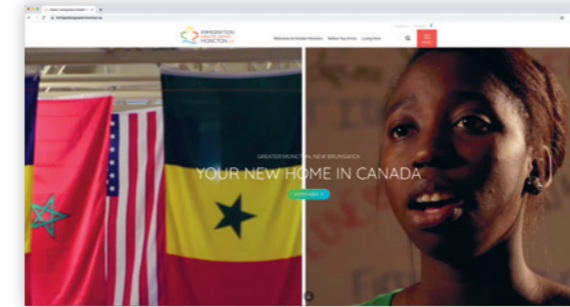
移住促進の資料やキャンペーンは、地方都市について幅広い層に発信する効果的な方法です。町の特徴やアピールポイントは多くあるかもしれませんが、情報の伝え方は受け手に合わせて変える必要があります。移民や難民に対しては異なる戦略が必要になるでしょう。最も効果的なのは、多文化アイデンティティを称える温かいイメージを打ち出すことです。



### 移民グレーター・モンクトンオンラインポータル

カナダ

[www.immigrationgreatermoncton.ca](http://www.immigrationgreatermoncton.ca)



#### 優れた特色:

- ウェブサイトのトップページで最初に目に入るものや、各ページで特集されている内容が、グレーター・モンクトン地域の多様な文化的背景を持つ新規移住者のビデオやストーリーであること
- 外部のウェブサイトや資料へのリンクとともに情報が明確で合理的に説明されていること(平易な英語を使用)

### ヌールラン・フライヤーへようこそ

ノルウェー

[www.bodo.no/wp-content/uploads/2018/02/nordland-preview.pdf](http://www.bodo.no/wp-content/uploads/2018/02/nordland-preview.pdf)



#### 優れた特色:

- 募集中の求人数と、特に求められている職業が分かりやすく記載されていること(町が求めている人材がすぐに伝わる)
- 地域のアウトドアな特徴が写真で分かりやすく捉えられていること

「求人を宣伝し、応募者を待つだけではもはや十分ではないと考えています。人々が、自分がコミュニティの一員であると感じられると同時に、適切な人をターゲットにすることが重要です。静寂が好き、自然が好き、人と知り合いたい...もしくは子どもにとって良い環境を求めている、旅行がしたい、などに当てはまる人であれば、ヌールランは良い場所です。良い点をアピールするだけでなく、全体像を描くことが必要なんです」

— キルステン・スプリンガー・ハスヴォル、ヌールラン県政府、ノルウェー



- 町の多文化アイデンティティをきちんと反映したイメージを使用すること
- 情報を異なる言語に翻訳すること
- マーケティング資料を具体化すること—求められている仕事とコミュニティ内の生活を明確にすること
- 「田舎」の捉え方に注意を払い、積極的に偏見をなくすようにすること

## 2. コミュニティで影響力を持つ人と協働する

国内の大都市にすでに定住している難民や移民の中にも、地方都市への移住に関心を持つ人は多くいるでしょう。しかし住む場所の決定は、同じ民族コミュニティの人々を含め、周囲にいる人々の態度や意見にしばしば左右されます。

田舎というステレオタイプや故郷の国での体験から、地方都市に対しては多くの誤った情報があります。移民や難民の中で影響力を持つ人々を特定し、活用することは、こうした思い込みを変え、より小さい町への移住機会を促進する力強い手法になりえます。



### 影響力を持つ人々とは？

- コミュニティリーダー
- 宗教的なリーダー
- 移住や雇用サービス（彼らの利用者層を知り、求めているものを知る）
- メディア（テレビ、新聞、SNS、地域ラジオ）
- 移住先にいる既存の移住者

### 社会的ネットワークを利用する

オーウェン・サウンド、カナダ

最近カナダにたどり着いた多くのシリア難民にとって、オンタリオ州のオーウェン・サウンドは、地図上の知らない町でしかありませんでした。それが携帯のメッセージプラットフォームであるワッツアップを通じて、この川沿いの町が働き口も多く、2万人が住むフレンドリーなコミュニティであることが伝わると、すべてが変わりました。カナダ全国のシリア人のネットワークは強力に結びついています。そのため、すでに国内の他の地域に定住していた家族たちがオーウェン・サウンドに移住し始めるのにさほど時間はかかりませんでした。彼らはコミュニティに両手を広げて温かく迎え入れられたのです。

### 都市の誘惑に抗う

レクネス、ノルウェー

アフガン難民の一団が、最初の目的地だったフォアテン諸島のレクネスを出てオスロに着いたとき、予想をしていなかった状況に直面しました。熾烈な就職競争、高い家賃、限られた支援といった事態に、レクネスでの生活が夢のように思えました。彼らはすぐにレクネスへと戻り、アフガンコミュニティでの噂を広め始めます。大都市のような刺激はなくても、適切な働き口と快適な生活を求めているなら、レクネスはうってつけの場所だったのです。

## 個人的意思決定をサポートする



難民や移民は異なる生活環境、経験、スキルや未来への展望を持った個人であり家族です。この多様なニーズを、移住希望の人々とながら戦略の幅にも反映させる必要があります。

カナダのピール・ニューカマーセンター（Newcomer Centre of Peel）が出した「ルーラル・エンプロイメント・イニシアチブ（地方雇用イニシアチブ）」は各個人がそれぞれの事情に基づいて十分な情報を得て転居を決定できるように支援する、画期的な方法です。

### ルーラル・エンプロイメント・イニシアチブ

ピール、カナダ

カナダ移民・難民の半数以上はMTV地域（モントリオール、トロント、バンクーバー）に移住します。大都市圏のグレーター・トロント・エリアでは、ピール地域に集中しており、移民が人口の51.5%を占めています。多くの新規移住者は初期に集中的な求職活動を行い、すぐに熾烈な就職競争に気づくことになります。

ピール地域内のミシサガにある主要定住組織ピール・ニューカマーセンター（NCP）は、ほとんどの新住民が最初に訪れる場所です。彼らは2016年に「ルーラル・エンプロイメント・イニシアチブ（地方雇用イニシアチブ）」をスタートし、職探しに難航する増え続ける新規移住者たちに別の選択肢として地方での雇用を提案してきました。このプログラムは求職者と、彼らのスキルや経験に見合った地方での雇用機会とを結び付けています。

NCP職員は、新規移住者やその家族が受け入れられる企業や町で仕事があるように、細心の注意を払っています。受け入れやインクルーシブについて必要な下準備を行ったことが実証された、オンタリオ州中のさまざまな町とのパートナーシップを締結してきました。



「これは長期的なプログラムです。即効性を求めているわけではありません。製造業で100人を雇いたいというリクエストを受けたりもしますが、そんなことは起こらないし、そういうことではないのです。製造工場いきなり100人を移動させるなんてできないでしょう。そんなことをしたらおそらく2週間でトロントに戻っていくでしょうから」

— タニア・マキシメンコ、NCPプロジェクト・コーディネーター

# ルーラル・ エンプロイメント・ イニシアチブ (地 方雇用イニシアチ ブ) からの学び:

目的は個人や家族にとって、  
仕事だけでなく地域社会その  
ものも含め、合ったものを見  
つけること



## 1. 人々が選択肢を検討する手助けをする

地方での雇用を確保するためには、集中的で個々に合った支援が必要です。NCP職員は求職者のスキルや仕事の経験、今後のキャリアの展望から始めて、利用者の意思決定プロセスをガイドします。個人のニーズや価値観も重要な要素です。目的は個人や家族が仕事だけでなく、地域社会そのものも含め、自分たちに合ったものを見つけることです。例えば医療ニーズを抱えているなら、病院へのアクセスを優先させる必要があります。

クライアントは仕事だけでなく、コミュニティ全体にも関心があることを雇用者に示すなど、応募の際のテクニックについても指南されます。潜在的な課題をオープンに話し合うことは、クライアントにとってその町が合っているかどうかを判断するのに役立ちます。個別の対話は、カナダの地方での生活について、新規移住者が持っているかもしれない誤った認識や懸念を払しょくするために必要不可欠です。

「人々は子供たちのより良い未来のためにここへやって来ます。ですからオンタリオ州にはトロント以外にも良い大学があることを理解してもらう必要があります」とタニア・マキシメンコは言います。

仕事の仲介プロセスは、NCP職員が地方ネットワークを通じて広く求職者を宣伝することから始まります。NCPが主催するジョブフェアは、求職者にとって雇用主とつながったり、時にはその場で面接に参加できる素晴らしい機会です。移動に費用がかかる場合は、オンラインでのジョブフェアが便利で安価な代替手段になります。

## 2. 町への探訪ツアーを行う

ほとんどの人が行ったことのないまま見知らぬ土地に引っ越すことはしません。田舎町へのバスでのグループ訪問は、NCPの利用者たちにとって新しい住まいの可能性を見たり、体験することができる素晴らしい機会です。

NCPが企画したバスツアーには、約30名の新規移住求職者が参加しました。トロントから車で2時間ほど北東にあるオーウェン・サウンドの企業と対面しました。多くの求職者は訪問前にすでに雇用主たちとコンタクトがありましたが、実際に現地へ行き、地元の人々と対面で話すことで、その土地で生活し働くことについてより深い理解を得ることができました。



この訪問は、到着時の副市長や地域サービスやボランティアの人々の出迎えに始まり、参加者たちに「受け入れられている」という強い印象を残しました。また懸念を和らげ、オーウェン・サウンドが彼らに合った土地かどうかを判断するのに役立ちました。例えば公共交通機関がないということは、車と運転免許証が不可欠であることを意味します。参加者の中には不便な生活になるのでは、と憂慮していた人もいましたが、実際には町中にスーパーもあって驚いていました。

## 3. テクノロジーを利用して距離を克服する

トロントから900キロ離れた場所にあるサンダー・ベイは、積極的かつ個性的存在感をオンラインでアピールすることで、その地理的な孤立を克服し、新規移住者にとって魅力的な土地として自らをアピールしました。

「サンダーベイ・インターナショナル&コミュニティ・マッチメーカー (The Thunder Bay International and Community Matchmaker)」プロジェクトは、ノーザン・ポリシー・インスティテュート (Northern Policy Institute、北部政策研究所) の取り組みです。このプログラムではすでにカナダにいる移民 (NPC利用者を含む) と、スキルの高い労働者を探しているオンタリオ州北部の雇用主をつなぐためにテクノロジーを活用しています。地域のマッチメーカー・アドバイザーと呼ばれる人々が、転職を考えている求職者に個別のアドバイスを提供します。

こうした相談は電話やスカイプを通じて行われ、その内容は小さなコツから職探しのアクションプラン、起業支援まで多岐にわたります。アドバイザーの大きな役割の一つには、サンダーベイでの生活について地元の知識を提供することも含まれます。天気に関する質問はよく聞かれることで、ある人のために賃貸アパートのビデオツアーを行ったこともありました。求職者にとって、アドバイザーは電話の向こうで待っていてくれる、身近でフレンドリーな存在になっています。

地域を拠点とするマッチメーカーアドバイザーは、求職者がアクションを起こすために個々に合わせたアドバイスを提供します。



# 受け入れ



新規移住者が地域コミュニティにたどり着いたら、その後の定住戦略では歓迎されていると感じてもらうことに焦点を当てるべきです。最も強力な方法は、既存のコミュニティメンバーと新規移住者たちの社会的なつながりを構築することです。人々がそこに帰属していて、社会的、文化的、経済的な市民としての生活に参加できると感じられると、より長く滞在したいと希望する可能性も高くなります。

## お互いを知る

「私は小さな町が大好きです。ストックホルムのような市に比べ、小さな町では人々とより簡単につながり、体験を共有しあうことができます。ストックホルムに行ったときには、人々と交流するのが難しいと感じました。彼らは怯えた様子でどこかへ行ってしまふのです。私にはその理由が分かりませんでした。私のことを怖がっていたのかもしれない」

—ゼリセナイ、エリトリアからオーレへの新規移住者、スウェーデン



近所に住む人やコミュニティをリードしている人たちとつながっているという感覚は、生活の満足度を高め、最終的にその場に腰を落ち着ける決断を後押しします。ですが家族や友人がいない場所に来たばかりの人にとっては孤立を減らし、リソースやサポートにアクセスできるようにするための社会的ネットワークが特に重要になります。

一方で、社会的なつながりがすでに確立されている小さな町だと、新規移住者がコミュニティの一員であると感じるのが難しくなる場合があります。文化や言語の障壁がある場合はなおさらです。新規移住者と地元住民の間にあるこうした障壁を取り除くには、コミュニティの活動に参加し、新しいつながりを作っていくような機会を確保するための意図的な戦略と調整が必要です。

## 1. 善意を育てる

難民や移民を支援する取り組みはしばしば、地元住民の小さいグループから始まります。彼らは自分たちの街に来た新規移住者に対してプラスの感情を持ち、異文化の交流に関心を持っています。こうした地元住民たちは、自ら動いて積極的に新規移住者を迎え入れようとします。こうした戦略がコミュニティ全体に広がるよう、地元コミュニティのメンバーたちは彼らの努力を活用して善意を育てる方法を見つける必要があります。

善意を持つ人々の連合を作り、新規移住者を迎え入れるアンバサダーになりましょう。

### コミュニティアクションの核

セントジョセフ、ミネソタ

カソリックとルター派が強いセントジョセフの町に、国内からソマリア難民が移動してきた時、地元のコミュニティはキリスト教の「ホスピタリティ」の精神で、温かく迎え入れました。人口7000人の閑静な田舎のミネソタ州のこの町で核となったのは、セントベネディクト修道院と大学、セントジョンズ大学でした。

家族の多くは脆弱な女性が世帯主で、英語もあまり喋れず、コミュニティからとても孤立していました。町には定住支援サービスがなく、家族の自立を助けるのはコミュニティのメンバーに一任されていました。

教会は信徒たちに呼びかけ、大学の地下にあるスペースを使い、ボランティアによる英語のクラスを開講しました。生徒とソマリア人との関係や理解を深めることを目的に、複数の大学から成る「理解の輪」が設立され、リベラルアーツでは学生が積極的に関わるよう実践的な支援を要素に含んだカリキュラムが組まれました。こうした機関が持つ地位と信頼はボランティア活動を活性化させ、受け入れ態勢のあるコミュニティを作る上で不可欠でした。

### 私のコミュニティー家のようにくつろぐ

オーバーアルゴイ、ドイツ

ドイツのオーバーアルゴイでは、市民の関わりを通じて社会のあらゆるレベルでのインクルージョンを推進することを目的にしたプロジェクトが、地域全体で難民支援活動を行うための完璧な基盤となりました。

「マイン・ゲマインデー ハイマート・フューア・アレ (マイ・コミュニティー家のようにくつろぐ、の意)」は2012年に非営利団体カリタスが、地域の地域開発機関である

「Regionalentwicklung Oberallgäu」と共同で立ち上げたプロジェクトです。このプロジェクトのビジョンは全ての人々が自分の人生を形づくり、コミュニティ活動に参加し、社会的、政治的、文化的な生活や職業に平等の機会と自由なアクセスを持つことでした。

2015年に難民たちがこの地域に流入し始めた時、サービスや仕組みを導入するための時間はありませんでした。新規移住者たちが持つ迅速で緊急なニーズは、数百人単位で名乗りをあげたボランティアたちに大きく依存していました。「マイン・ゲマインデ」の一環として設立された地元の部会は、難民支援とインクルージョン活動を活性化させる理想的な手段となりました。

カリタス・プロジェクト・コーディネーターはこの地域の28の市町村の地方自治体と協働し、各町にボランティアチームを形成し、地元でのアクティビティを計画・調整できるようにしました。当初は多くの地元住民から懸念の声が上がったものの、難民が到着すると、助けを必要としている近所の人たちとして迎えられました。個人的なつながりが恐怖心を取り払い、より多くの地元住民たちが積極的に参加するようになりました。もっとも多い時では地域全体で1500人のボランティアが既存のグループや団体、教会などから集まりました。

「カリタス」の焦点は、ボランティアチームの能力を構築することであり、すべての人にインクルージョンを、という自らのビジョンを定期的に振り返ることにありました。地域の調整役としての役割には下記が含まれます：

- ボランティアに指導やアドバイスを提供し、彼らの質問や懸念に対応すること

- 難民の到着やポリシー、サービスに関して定期的に情報やアップデートを伝達する
- 地方自治体間のコミュニケーションと調整を円滑に進める
- コミュニティのミーティングと状況共有セッションを実施する

多くのボランティアチームは周辺の町々からはすぐに見えないような革新的なプロジェクトを始めていました。その内容は、衣料品配布センターからガーデニングプロジェクト、学校に通う児童のための宿題の個人指導まで多岐にわたりました。カリタスは「Inklusionsmelder (インクルージョン・ディテクター、の意)」と呼ばれるオンラインプラットフォームを立ち上げ、地元住民たちが地域の活動の詳細や、地域全体の成功例を紹介できるようにしました。このツールは新しいアイデアを閃かせ、ボランティアチーム同士をつなぎ、地域内での指導や支援のネットワークを構築するのに役立ちました。



「戦略的計画と調整への投資は重要です。ここで考えるべきは、どのような道建設するかということではなく、違う場所から来た人たちが将来どのように一緒に生活していけるかということです。『私の街に来て自分の居場所を見つけなよ』ではなく、『私の街はあなたの町よ』という姿勢なのです」

— アルミン・ルーフ博士、カリタス前インテグレーション・プロジェクト・マネージャー



### 「ノルウェー人の炎の魂」

スボルベル、ノルウェー

ノルウェーには、スポーツクラブのコーチや経営、町議会の役員、ホームレスシェルターの手助け、地域イベントの企画、若い人たちの指導などを、一銭の見返りも要求せずに行う人々を指す言葉がある。「炎の魂」という意味を持つ「ildsjeler」という単語だ。

人里離れたロフォーテン諸島の小さな町スボルベルの地方自治体は、2015年に最初の難民たちが到着した時、こうした炎の魂たちを頼りにしていました。しかし、彼らの活動だけに頼ってはいない新規移住者たちが新しい家に迎え入れられ、溶け込む実感を持つことは難しいだろうという懸念は活動初期からありました。そこで炎の魂たちの熱意とネットワークを活用し、地元の主要な地域グループ、スポーツクラブ、支援団体やボランティアネットワークに働きかけ、彼らを支援活動に巻き込みました。

月例会議などで各団体の代表者たちが一堂に集うボランティアネットワークを作ること、地域の活動を調整し、ギャップを特定し、援助の手から誰も取りこぼされることがないようにしました。

## 2. ミーティングスペースを作る

バディ制度やメンタリングプログラムは新規移住者のための支援や友情関係を構築するのに素晴らしい方法であることが証明されています。ですが、全員が一对一のボランティア活動のための時間や関心があるわけではありません。地域社会の誰もが異なる文化に触れ、新規移住者につながる多様な方法を設けることも重要です。

偶然の関係が生まれる場を作る。

### Språkcafé (言語カフェ、の意)

オーレ、スウェーデン

Åre Språkcaféはスウェーデンの小さな町オーレで、毎週火曜の夜に開かれています。毎回だいたい40名ほどの新規移住者と地元住民が集まります。部屋は活気と笑いに満ち、あらゆる年代や背景を持つ人々が会話を楽しみ、カードゲームで遊び、食べ物を分け合っています。ここは新規移住者の人が安心して過ごせる場所で、最初に町にたどり着いた時に立ち寄ることが多い場所でもあります。あるアフリカの若者が突然自分の家を失った時には、ボランティアが自分たちの家を一時的な宿泊場所として提供し、立ち直るのを助けました。Språkcaféでできたつながりはスウェーデン語の上達にとどまらず、支援への道を開き、帰属感を生み出すことにもつながっています。



### 近隣との関わりをもつ

ノルウェー

ノルウェー人はあまり世間話をしないことで知られています。だからこそ、新規移住者と地元住民がドゥーグナッドのようなアクティビティを通して出会う機会を作ることが重要です。ドゥーグナッド(近所ボランティアの日)は、ノルウェーの重要な文化の一部です。一年に2回、人々はアパートの地区や別荘、学校や職場に集まり、メンテナンスや春の大掃除、ガーデニングなどをボランティアで行います。ドゥーグナッドは新規移住者にとって、地域での新しいつながりを作る良い機会です。また、就職に有用なスキルやつながりを作るのにも役立ちます。こうした地域の重要なイベントに参加することは、新規移住者にとって地域に恩返しができるチャンスでもあり、新しい土地のコミュニティに貢献できた実感を得られる機会でもあります。



### 先住民コミュニティとの架け橋を作る

ハリファックス、カナダ

カナダのハリファックスでは、移住者を受け入れる都市づくりの一環として、ハリファックス地域自治体(Halifax Regional Municipality)が地元の先住民と協力し、新規移住者と先住民との関係づくりをしています。2018年、ハリファックスは最初の多言語フェアを開催し、市内で話されている多様な言語(何世代にもわたって地域で話されている先住民の言語やその他の言語も含む)を紹介しました。このイベントの大成功は、既存コミュニティと新規移住者のコミュニティの架け橋を作ることのニーズと関心の高さを浮き彫りにしました。



### ボランティアを通じた友情

インメンシュタット、ドイツ

ヘンドとフラウ・フシュカは2017年に南ドイツの町インメンシュタットにある古着センターのボランティアとして出会いました。フラウ・フシュカは2016年、町に来た難民たちに衣料品を配るためにこのセンターを設立しましたが、そのサービスは今や町全体に広がっています。センターのスタッフは全員ボランティアで、その中には恩返しをしたいという熱い思いを持った新規移住者たちもいました。

最初にインメンシュタットに辿り着いた時、ヘンドはドイツ語を全く話せず職探しは難航しました。センターでのボランティアは、ヘンドにとって週に一度家を出て他の女性たちと会い、ドイツ語を上達させる良い機会になりました。

フラウ・フシュカとヘンドは早い時期から特別なつながりを持ち、それはやがて美しい友情へと発展しました。二人はセンターの外でも、シリアやドイツの手料理を囲んでおしゃべりをし、多くの時間を一緒に過ごしています。

### 3. ストーリーテリングの力を活用する

お互いにつながりあったこの世界では、私たちは日々膨大な量の情報やメッセージに晒されています。これは誤情報や偏見につながり、難民や移民に対する一般の人々の認識にも影響を与えます。理解と支援を作るためにストーリーを共有することには大きなメリットがあります。

人々の価値観と感情に訴えることは、彼らを引き込み、説得する上で強力な方法です。

### 演劇を通じて信頼を築く

ミズーラ、米国

最初の難民がコンゴ共和国からモンタナ州のミズーラに到着し始めた時、一部の人々には不安を持って迎えられました。ミズーラのほとんどの人はアフリカからの難民に会ったことがなく、新規移住者がバスや町中に現れ始め、戸惑いを感じていました。ミズーラに6ヶ月滞在していたジョエル・カンパレはコンゴ難民の旅を地元の人々に伝えるべく、演劇をしようと思いつきました。

6人のコンゴ難民の家族の実話を描いた「一人が大勢になる時 (When One Becomes Many)」を演じたのは、ミズーラに最近住み始めた大人と子どもたちです。劇は盛大な成功を収め、地域中の町でショートドキュメンタリーとして上映されることになりました。劇は難民への理解を深める強力なツールとなったのです。

### 地元メディアと協働する

オーレ、スウェーデン

スウェーデン・オーレの新規移住者統合チームは、地元新聞やテレビ局と協働し、難民についての前向きなニュースを伝えています。難民が職場で成功した事例を雇用主の証言とともに紹介することで、他の雇用者が新規移住者を採用する関心呼び起こすきっかけになりました。メディアはまた、難民が地元のビジネスの成長と雇用創出にいかに関与しているかを強調する重要な役割を果たしています。

### 食べ物を通じて文化を共有する

ミズーラ、米国

食べ物はストーリーテリングの強力な手段です。ミズーラの非営利団体ソフトランディング・ミズーラ (Soft Landing Missoula) による「ユナイテッド・ウィー・イート@ホーム (United We Eat @home)」プロジェクトは、難民や移民のシェフたちのユニークな手料理を、地元住民の食卓に直接届けています。テイクアウトの注文を毎週金曜日からオンラインで受け付け、翌週の水曜の夜にピックアップします。その週のシェフはウェブサイトで紹介され、顧客は彼らの文化的背景や、料理への情熱や、ミズーラまでの旅を知ることができます。ピックアップの時に交わされる顧客とシェフとのフレンドリーなやりとりは、異なる背景を持つ人たちが対面で交流する良い機会になっています。そうすることで垣根を取り除くとともに、新規移住者が町の文化の活性化に貢献していることを浮き彫りにしています。

「私たちは小さな町ですし、移住してくる方も多くいるわけではありませんから多国籍料理も限られています。150食はものの数時間で売り切れます。人々にとって本当にワクワクする取り組みです。難民のシェフたちには経済的な機会を与え、コミュニティには文化の溝を超える架け橋を作っているのです」

—メアリー・プール、ソフトランディング・ミズーラ



### コミュニケーションのツールキット

ミネソタ、米国

米国ミネソタ州福祉局は、難民の再定住に関するコミュニケーションツールを作成しました。このツールキットではミネソタ州の難民の再定住について一般市民のサポートと理解を得るために、一連の推奨事項を提示しています。このツールキットでは、より広範囲で歓迎的な移民政策がもたらす集団的利益について、一般市民が考えるための手助けとして「繁栄の共有」と「人間の尊厳」の価値を強調しています。地域のグループや組織にとって、ポジティブな語りを作り出す上でこのツールは貴重なリソースになっています。



### 学び

- ビジネスの成長や雇用創出など、新規移住者がもたらした経済的貢献に注目を集める
- 文化の多様性の価値を強調し、難民や移民があなたの町の文化的魅力の貢献者であることを認識してもらう
- 新規移住者が自分のストーリーや文化を共有するための創造的な方法を見つける

## 仕事とスキルに注目する

仕事を見つけることは再定住を成功させるために不可欠の要素ですが、新規移住者は更なる障壁があります。紛争や戦争により、多くの難民は教育や職業訓練の機会を得ることがありませんでした。また自国ではプロであったとしても、資格や経験を証明する書類も持たず、突然国を逃れなければいけなくなった人もいます。言語の障壁はさらに課題となります。

誘致・定住戦略において、雇用者が前面に出ることは必要不可欠です。新規移住者への支援を提供し、既存のスキルや経験を活用し、スキルアップを図る上では雇用主が非常に重要な役割を担います。

### 1. 雇用者と協働する

雇用主は、当座しのぎの方策としてではなく長期的な地域社会戦略において難民や移民を採用することの価値を見ていく必要があります。定住に投資をし、歓迎的な職場を作るとは、雇用主にとっては少し余分な時間や努力を要するかもしれませんが、忠実で献身的かつスキルのある従業員がもたらす恩恵は十分に価値あるものです。

雇用主が文化的に多様な労働力を採用、育成、維持できるように支援する。

「私たちは小さい町なので、仕事で成功すれば全員が知ることになります。そうすると次の仕事も見つけやすいのです」

— オーレ地方自治体の職員、スウェーデン

### ノルモンタージュ、協力的な職場

オーレ、スウェーデン

スウェーデン、オーレの変電所メーカーであるノルモンタージュ (Norrmontage) は、ビジネスの発展を新規移住者に頼っています。90人の従業員のうち、ほぼ半数が難民の背景を持つ人たちです。会社は重機の操作や細部への注意が必要となる仕事に合う人材を見つけるため、地域の定住支援サービスと密に連携してきました。すべての指示がスウェーデン語で書かれているため、言語の壁が課題になることもありません。ほとんどの新規従業員は現場仕事から始めますが、スウェーデン語と技術的なスキルを身につけるよう奨励され、スキルが向上すれば異動する機会も与えられます。シフトはスウェーデン語初心者とネイティブのスウェーデン人とがペアになるため、言語の向上も期待できます。週に2回、勤務時間中に1時間のスウェーデン語教室を開かれています。

従業員は職場のジムも利用でき、社会活動や職場の外での集まりなど、同僚と知り合う機会も定期的に得ることができます。ノルモンタージュの投資は、新規移住従業員が短期的な労働力ニーズを満たす手段ではなく、長期的なビジネス戦略の一部であることを示しています。最近では口コミを通じての採用がほとんどで、従業員の家族や友人など職場でのネットワークを活用しています。



### コネクター・プログラム

ハリファックス、カナダ

地方都市の多くの求人は、通常の広告チャネルでは目にすることがありません。ノバスコシア州ハリファックスの「コネクター・プログラム (The Connector Program)」はビジネスコミュニティも含めたプロフェッショナルのネットワークを構築することで、新規移住者が隠れた求人に見つけやすくなっています。新しくカナダにきた難民、移民、もしくは新卒者 (コネクティブ) と、実績のある企業やコミュニティのリーダー (コネクター) たちをマッチングします。彼らはコネクターの職場やカフェで30分ほど、業界の詳細やスキル、専門分野、関連ニュース、現状の採用市場の需要やハリファックスでの隠れた仕事の機会について話し合います。

コネクターにとってはわずかな時間しか要しないライトなプログラムですが、コネクティブにとってはプロのネットワークと就職への足掛かりにつながります。2009年の開始以降、「コネクター・プログラム」は1300人以上の就職を支援してきました。現在ではカナダ全土で35のコミュニティに広がっています。



### 雇用主ラウンドテーブル

ウェリントン郡、カナダ

オンタリオ州のウェリントン郡は雇用主同士の会議を活用して、地元の雇用主が移民や難民を採用するためのビジネスケースを作成しました。地方における移民の経済的重要性を検討し、新規移住労働者たちの誘致・定住支援に利用可能なリソースを学ぶべく、地域全域の企業が移住サミットに招待されました。

郡の経済開発局は、将来の人口統計上の課題や、そうした課題を軽減する上で移民が果たす役割について、雇用主向けのプレゼンテーションを行いました。新規移住者を採用したことのある雇用主は、その経験や、労働力を引きつけ、維持するための戦略を共有しました。

ウェリントン郡は、文化的に多様な労働力を採用することや、従業員の社会的統合に投資することの恩恵を、企業に最も説得力ある形で伝えるのは、他の雇用主であることを発見しました。地元企業を一堂に集めることは成功した戦略を共有するだけでなく、雇用主同士の継続的な支援ネットワークを構築することにも役立つのです。



- 雇用主同士のネットワークを構築し、難民や移民を採用することの利点を宣伝し、戦略を共有すること
- 伝統的な採用の形式を超えて、新規移住者とコンタクトを取ること
- 職場で言語サポートを提供すること
- 新規移住者とその他の労働者とのつながりを奨励することで、職場での社会的統合を推進すること
- 定住支援サービスと雇用主間の関係を構築し、助言や支援を行うこと

## 2. 新規移住者のスキルを評価し、活用する

職を得ることは新しいコミュニティで根を下ろすために不可欠な要素ですが、その際鍵となるのは充実した仕事であるかどうかです。新しく来た難民や移民は、彼らのスキルや経験とは異なるフィールドやレベルで働くことがあります。単なる仕事ではなく、長期的なキャリアの道筋を支援することが重要です。

転用可能なスキルを活かす方法を模索することで、移住者の誘致・定着と地域のビジネス成長を促進することができます。

### 個人に合わせて支援する

#### オーレ、スウェーデン

スウェーデン・オーレ自治体の新規移住者サービスチームは、地域に到着してから最初の数年の各難民の歩みを、ホワイトボードを使って追跡しています。オリエンテーションプログラム、スウェーデン語の授業、教育、職業訓練、異なる企業での採用など、様々なカテゴリーで400名に及ぶ個人の写真が入れ替わります。潜在的な従業員とのマッチングを見るため、募集中の求人情報を右の列に表示しています。職員の注意を引き留め、一人として取りこぼしがないようにするためのシンプルで効果的な手法です。

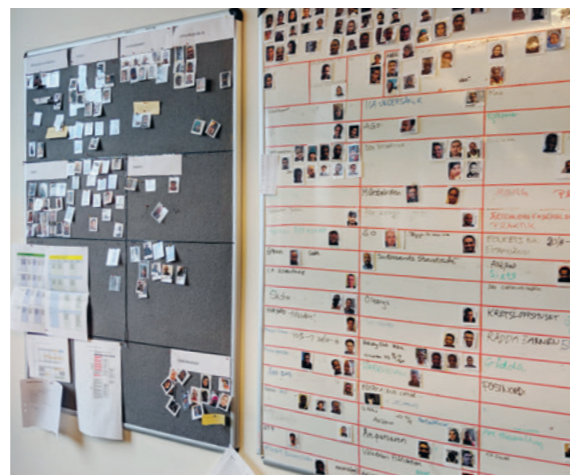
チームはあらゆる機会を使って彼らのクライアントを理解するようにしています。クロスカントリースキーなど月ごとに行う野外でのレクリエーションは、オーレの素晴らしい自然を楽しむ方法（暖かく過ごす方法も！）を新規移住者に教えるだけでなく、スタッフと新規移住者がリラックスした状況でお互いを理解し合う機会にもなります。これはその人に合った仕事を見つける上で重要なことです。

チームはまた、空いているポジションを特定し、どのような人材を求めているかを正確に理解するために雇用主とも多くの時間を過ごします。新規移住者のスキル、職務経験、性格を知ること、その求人ベストな人材を配置することができます。この地域は世界的なスキー地として知られ、夏にはマウンテンバイク愛好者たちが増えるおかげで仕事に事欠くことはありません。季節に左右される仕事は一つの企業での通年雇用を見つけるのを難しくする一方で、ホワイトボードのシステムが時期によって異なる

る仕事をコーディネートするのに役立っています。

オーレの新規移住者支援システム全般は、個人を歓迎し、彼らの強みを活かすことに焦点を置いています。「前難民」は支援されるべき人々ではなく、地域の成長と繁栄に欠かせない存在です。2010年、オーレの人口は1万300人と減少の一途を辿っていましたが、新規移住者たちのおかげで現在は1万1200人を超えています。

オーレでは人々を迎え入れるというのは、一人一人の個人が提供するものを評価し、それらを実践する方法を探るということを意味します。濃密な作業ですが、今では地域のほぼあらゆる業界で新規移住者が働いているのを見かけます。新規移住者と彼らの雇用主、同僚との間に築かれた関係性は社会的な利益を生み、コミュニティにおける新規移住者の全体的な受け入れを後押ししています。過去数年間にオーレにたどり着いた多くの新規移住者のうち、8割は就職し、9割は町にとどまっています。



### 「ファーマーズ・フィード・ザ・ワールド」プロジェクト

#### クインテ、カナダ

クインテ移民局 (Quinte Immigration Services, QIS) は、農業経験を持つ数百のシリア難民がトロントに住み、職を探していると聞いた時、素晴らしいアイデアを思いつきました。「ファーマーズ・フィード・ザ・ワールド」プロジェクトを立ち上げ、トロントのシリア農民を採用して地域の深刻な農業の労働力不足に対処しようと考えたのです。

QISはアラビア語を話す職員を採用し、農民たちにコンタクトし、150名以上の難民が出席する説明会を開きました。説明会で潜在的な従業員を選抜したものの、彼らの多くはシリアの人里離れた農村地域に住んでいたために、読み書きに困難を抱えていることが分かり、レジユメの執筆を手助けする人たちも呼ばれました。収穫期の直前に、QISはスキルマッチセッションを開催し、評価された難民と14の雇用主が、面接をサポートする通訳とともに一堂に集いました。結果、90人以上が農場や農業・食品関連の仕事を得ることができました。

その後このプログラムは地域を超えて広がり、インタラクティブなウェブサイトやアラビア語に翻訳されたオンラインでのウェビナーシリーズが立ち上がりました。それによってカナダの他の地域に住む新規移住者にも雇用機会の門戸が開かれるとともに、カナダの農業慣行に関する教育を提供する機会にもなりました。



### 高齢者介護の人材育成

#### ボーデ、ノルウェー

世界の多くの町が高齢化を経験している中、高齢者介護は労働力ニーズが高まり続けていく分野です。ノルウェーのボーデ難民局は、ノルウェー語クラスと介護施設での実地研修を統合することで労働力ニーズに対応する画期的な方法を見つけました。高齢者介護職に関心があり、それなりのレベルのノルウェー語を習得している難民に、3日間のノルウェー語研修と、1日間の医療に特化した職場語学研修、そして1日間の介護施設での仕事を行うプログラムを提供します。4年にわたるこのプログラムの中では、徐々に職場の割合が増えていき、参加者は准看護の証明書を取得して卒業するという仕組みです。

ほとんどの参加者はノルウェーに着いて半年後に職場研修を始めます。これにより、ノルウェー語が急速に上達するだけでなく、異なる文化的背景の中で働く上で必要なソフトスキルを身につけることもできます。雇用主はこのプログラムに高い満足度を示しており、異なる文化的・言語的背景を持つ従業員たちが、より包括的に受け入れられるための慣行や方針を改善するきっかけになったと報告しています。



- 新規移住者が新たな土地でも使えるスキルを、教育、研修、スキルや資格認定を通じて特定し、活用すること
- あなたの町に必要なスキルセットを持つ難民や移民グループに向けて、業界ベースのプロジェクトを設計すること
- 起業家精神や小さな企業の立ち上げをサポートすること
- コミュニケーションや職場の文化の理解といったソフトスキルを新規移住者が身につけるのを手助けすること

## → 包括的なアプローチを取る

「「私たちが新規移住者をより温かく迎え入れる地域づくりに成功すれば、あらゆる人を温かく迎え入れることにつながるという認識がありました」

ー デビッド・モリス、オーエン・サウンド、カナダ

新規移住者はどんな組織のどんなサービスのドアを叩いても、他の人たちと同じレベルのサービスを受けられる必要があります。インクルージョンにおいて人々が直面する障壁について時間をかけて検討し、集団的解決を見出すことは、新規移住者の体験やひいては地域全体に持続的な影響を与えることができます。

### 1. サービスの能力を構築する

- 包括性と差別撤廃に関する方針
- 文化的コンピテンシー／謙虚さに関するトレーニング
- 通訳者や翻訳者の活用
- 宗教的ニーズの理解と対応

### 定住サービスの分散化

ブルース・グレイ、カナダ

「メイキング・グレイ・ブルース・ホーム」プロジェクトではカナダ・オンタリオ州のグレイブルースの地方に点在する133のサービスに対し、文化的謙遜に関するトレーニングを行いました。文化的謙遜とは生涯学習を実践し、内省と批評を行い、権力と特権の力学を認識することです。地域に引っ越してくる難民と移民が増加し、定住支援団体がない中では、既存のサービスが新規移住者たちのニーズに適っているかを確かめることが重要でした。プロジェクトでは地域全体のサービスをマッピングし、子どもや家族の支援、保健クリニックや、郡政府の行政スタッフなど、多岐にわたるサービス向けのトレーニングパッケージを開発しました。これによりスキルを特定し、知識のギャップが解消されるようにしました。

「私たちは一つの組織で定住サービスを提供するのではなく、定住支援サービスがさまざまなコミュニティのさまざまな組織から提供される分散的モデルを構築しようと試みました。各サービスが新規移住者たちとともに働き、彼らを顧客として取り込む能力を構築できるように支援をしています」

ー メイ・イップ、ユナイテッドウェイ・オブ・ブルース・グレイ、カナダ



### 学校でのインクルージョン

フレデリクトン、カナダ

シリア戦争が勃発した時、カナダのニュー・ブランズウィック州は前例のない数の難民受け入れに手を挙げました。2017年までに州都のフレデリクトンは、一人あたりの難民定住者数が国内で最も多くなりました。人口約5万5000人の都市に、1年の間に500人が定住しました。

アングロフォン・ウエストスクール地区 (Anglophone West School District) には69の学校があり、この流入をきっかけに新しい政策アプローチを開発しました。カナダ全土と海外から、長期にわたって懸命に事例を探し、今や全学校の取り組みの核になっているインクルージョン政策にたどり着きました。包括的な学校教育を提供するという事は、全生徒の学校での体験が、彼らの個々の強みとニーズに即したものであるよう生徒中心のアプローチを取ることです。それはまた多様性を尊重し、学習へのあらゆる障壁を取り除くということでもあります。教育スタッフたちには多様な背景を持つ生徒をサポートするため、特別なトレーニングやリソースを提供します。

その一例が、グレーター・フレデリクトンの新規移住者支援センターです。新規移住者の子どもたちが学校に登録する際、カナダの学校制度に対する疑問に答えたり、子どもの英語レベルや社会的な背景について判断するための一対一の面談が設けられます。これは初期の段階から支援につなげるのに有用です。また子どもの教育に確実な成果をもたらすため、家族にも他の有益なサービスや情報へのアクセスを提供しています。

アングロフォン・ウエストスクール地区は、生徒や保護者、先生たちと学校でインクルージョン

のマインドセットを育てることが、フレデリクトンのより広い地域社会での多様性の受け入れにつながっていくことを期待しています。

### 住宅差別を乗り越える

セントクラウド、米国

ソマリア難民は米国ミネソタ州の小さな都市セントクラウドに到着した当初、アパート探しに苦労しました。4割は空き物件という噂もある中、多くの新規移住者たちが大家からの差別に遭ったり、入居を断られ続けたと報告しています。

地元の定住支援組織であるルーテル社会サービス (Lutheran Social Services, LSS) は、セントクラウドを拠点とする大家たちを四半期ごとに集めた大家エンゲージメント委員会 (Landlord Engagement Committee) を設立しました。委員会の会議では、大家たちが安全に感じる環境で問題や懸念を上げることができ、LSSのスタッフたちが情報や戦略、リソースを提供しています。会議はまた、将来の問題を防ぐためにLSSが入居希望者へ教育する際の貴重な情報源にもなっています。この委員会のおかげで、セントクラウドに住むソマリア人は賃貸物件を見つけるのが容易になりました。



### 学び

- 新しく何かを作り出すよりも、既存のもの能力を向上させることに焦点を置くこと
- 文化的謙遜トレーニングを提供し、政策と実践への変更を実行すること
- 地域内の専門家の知識を活用し、他の人たちの専門知を高めること
- セクター間のネットワークを構築し、インクルージョンにまつわる問題や戦略を共有しあうこと

## 2. 新規移住者がシステムを使うのを手助けする

小さい町だからといって、どこに助けを求めたら良いかを知るのが簡単というわけではありません。そこに言語や文化の障壁が加わると、どんなサービスが活用できるかを理解するのは非常に難しくなります。

### 一対一のオリエンテーション

#### オーレ、スウェーデン

スウェーデン・オーレに引っ越してきた全住民は、地方自治体のスタッフから連絡を受け、コミュニティへのオリエンテーションとして個別面談に招待されます。そこでは地元のサービスやプログラムなどの情報をまとめたオリエンテーションパックが提供され、何か質問があれば火曜日や木曜日に事務所に立ち寄るように案内があります。



### コミュニティ・アウトポスト

#### セントクラウド、米国

ミネソタ州のセントクラウドの「コミュニティ・アウトポスト (The Community Outpost)」は、サービスや支援を必要な人々の玄関先まで届ける画期的な方法です。セントクラウド警察署がセントクラウドのロータリークラブとその他多数の団体とともに、新しく到着したソマリア住民が多く住む郊外で立ち上げたものです。

外からは一見、典型的な二階建ての米国の中流家庭の住宅のように見えますが、中に入ってみると、新規移住者が曜日によって就職相談や英語の授業、医療サービスや縫い物のワークショップなどを受けられるフレンドリーなコミュニティスペースになっています。この建物は多様な団体にオフィスやミーティングスペースを提供しており、地元住民にとって便利でアクセスしやすい情報拠点となっています。「コミュニティ・アウトポスト」にはほとんどの時間地元の警察官もおり、懸念に答えたり、午後になると無料のアイスクリームを求めてやってくる学校帰りの子供達を出迎えたりしています。

このコンセプトは、セントクラウド警察が重視しているコミュニティ中心の治安維持と自然にマッチしました。彼らは問題やその影響を多面的に捉え、コミュニティ全体で解決策を実施するよう努めています。

セントクラウド警察は、このモデルにより地域の犯罪率が劇的に減少し、ソマリア人コミュニティと警察官との間の信頼度が高まったと報告しています。もう一つの成果はセントクラウド内の警察と各サービスの連携が増えたことで、調整力が高まり、人々が支援の網からこぼれ落ちるのを防ぐのに繋がっていることです。

注目:

## フレデリクトン ニュー・ブランズウィック、カナダ



人口:6万人

二つの主要な大学

アピールポイントは「カナダのスタートアップの中心地」

カナダでもっとも人口減少率が高い都市

年間1,000人の新住民の誘致を目指す

### 鍵となる学び

フレデリクトンの人々の間には新規移住者を誘致するだけでなく、彼らが安心感を持ち、定住することが大事であるという合意が得られています。政府、コミュニティ、企業などセクターを超えたリーダーたちの委員会が行動の核となり、長期的な計画、調整、連携を通じて取り組みの最大化に貢献しています。フレデリクトンでは、全員が新規移住者を歓迎し、受け入れる役割を担っています。彼らは自分たちの町の未来がそこにかかっていることを知っているのです。

「フレデリクトンには新規移住者や移民の定住やインテグレーションを向上させるために動いている小さな委員会がいくつもあります。単にアクティビティを繰り返すのではなく、すでに地域の中にあるものを土台にしようと努めています」

— アムガド・ザキー、イグナイト・フレデリクトン



フレデリクトンのストーリー: p25, 47, 51, 56

# 住居に関する クリエイティブなアイデア

住宅不足は地域のコミュニティが成長する上で大きな障害となります。早くて簡単な解決策はありませんが、既存の枠にとらわれない考え方が画期的な解決策につながる可能性があります。



## 1.

ミネソタ州セントジョセフにある2つの主要大学の学内の学生寮が拡大されたことに伴い、町の多数の大型集合住宅が空き家となりました。アパートは元々4〜6名の生徒が過ごせるよう建てられているため、複数のベッドルームやバスルーム、共有スペースがあり、米国の他の地域から移転してきた女性を世帯主とするソマリア人大家族を受け入れるのにぴったりの大きさになっています。

## 2.

人里離れた、人口も少ないノルウェーのロフォーテン諸島フラクスタに難民が最初に到着したとき、賃貸住宅の不足により難民たちは地域内の孤立した家々に住むことを強いられました。フラクスタの多くの住居は空き家でしたが、それらは本島に住む人々がたまの別荘として使用していたのです。自治体は、スーパーやバス停などが近いランベルクの行政中心部にある住宅を対象に、複数の家主たちと賃貸契約の交渉に乗り出しました。自治体は現在、仲介役として新規移住者へ住宅の貸し出しを行っており、人々がなるべくつながりを感じられるように努めています。

## 3.

カナダのベルビルでは、海外からの留学生や移民たちを誘致しようとした結果、意図せぬ深刻な住宅不足に陥りました。市による初めての住宅サミットでは、供給を増やすための具体的な戦略を明らかにしました。この中には、不動産所有者が現在の住宅にセカンドユニットを追加できるようにするための議会条例の改正や、元学校をアパートに改築することなどが含まれています。

## 4.

モンタナ州ミズーラの国際救済委員会(The International Rescue Committee)は、Airbnbと連携し、難民向けに無料で短期間の住居を提供することにしました。大学都市のため、一年の特定の時期は民間の賃貸住宅を確保することが困難になります。Airbnbというオンラインのプラットフォームを通じて、難民たちが長期的な住居に移れるまでの間、住居を必要とする家族と家を貸し出せるオーナーとの間をつないでいます。

## 5.

人口約1,000人のカナダのチップマンでは手頃な価格の住居が不足していました。町最大の雇用主であるJ.D. アーヴィング(JDI)はチップマン地方議会と提携し、移民労働者が住めるように8エーカーの分譲地を建設しました。これによりJDIは伐採事業を拡大し、400名の移民を新たに採用することができました。



# 成長する



時間とともに、地方都市における新しい移民や難民のニーズは変化していきます。コミュニティは新しい人、ビジネス、人口増加に伴うその他の変化により、目に見えて変わり始めていくかもしれません。どのように物事が進んでいるのかを把握し、立ち現れる問題に対処する方法を見つけていくことは、課題を軽減するのに役立ちます。家族がコミュニティの一員であると感じられるようにすることは、新規移住者が定住するための重要な要素になります。

## コミュニティの温かい歓迎を拡大し続ける

### 家族の定着を支援する

#### 1. 子どもと若者に投資する

多くの人々は自分の子どもたちが安全で安定した環境で成長できるようにと、地方都市へ引越してきます。子どもや若者が学校やコミュニティで幸せに過ごせることが、家族にとっての拠り所となります。

#### 質の高い子どもの教育

##### オーレ、スウェーデン

スウェーデン・オーレにある森に囲まれた人口150人の小さな町で、ある難民一家が最初に家を提供されたとき、彼らはそれを嫌がりました。他のコミュニティから分断され、孤立するようになっていたからです。ですが町を出ていくバス乗らないよう説得したのは、地元の学校や託児所で生き生きと過ごすことができていた子ども達でした。町の教育機関の質はスウェーデンの他の地域よりもはるかに優れていました。両親は、ここが子ども達の将来にとってふさわしい場所であると理解したのです。



#### 高校バディプログラム

##### ケンプテン、ドイツ

ドイツ・ケンプテンの普段は静かな街に最初の難民の若者達が到着した時、ドイツ人達は彼らを疑いの目で見ました。主に中東やアフリカから来た若者たちは、地元の高校に近いドイツ語に特化した語学学校に入学しました。ですが、これが同年代の地元住民からの予期せぬ差別につながり、グループ間の緊張を招いてしまいます。そこである高校の先生がバディプログラムを始めることを思いつきました。今では毎日午後1時から2時まで、高校生達が語学学校を訪れてゲームをしたり、読書をしたり、一緒に出かけたりしています。緊張感は去り、新たな友情も芽生えています。

注目:

## オーレ地方自治体 イエムランド県、スウェーデン



人口: 1万1500人

観光業 (冬はスキー、夏はマウンテンバイク)

800以上の小さな企業

5年間で700人の難民が到着

新規移住者の定住率は9割

## 鍵となる学び

オーレの注目すべきところは約700人の難民を単に迎え入れただけでなく、定住率が9割に上っていることです。人々をオーレに引き留めるものは、地域社会への強い帰属感とつながりです。町のほぼあらゆる業種で新規移住者が働いているのを見かけることができますし、多くの友情も育まれています。季節労働職が多い中で、新規移住者達が通年雇用されるように重点を置いています。

「オーレの取り組みで重要だと思うのは、私たちが本当にしたくてやっているということです。私たちは良い仕事をしたい。難民や世界中から来る人々を私たちの場所に迎え入れたい。私たちは自分たちの土地を誇らしく思っていますし、それをより多くの人と共有したいのです。私たちの町を私たちと同じくらい楽しんでくれる人が増えたらいいなと思っています」

— ハンナ・モバック、オーレ地方自治体



オーレのストーリー: p2, 18, 36, 39, 40, 42, 44, 48, 52, 54

## 2. 配偶者にコンタクトする

多くの取り組みは対象が家族の大黒柱に偏っており、しばしばその配偶者達のニーズが見過されることがあります。配偶者達を巻き込み、彼らをサポートできれば家族も留まる可能性が高くなります。

### 配偶者のための雇用

#### フラクスタ、ノルウェー

ノルウェーの「季節労働者からフラクスタ住民へ (The From Seasonal Worker to Flakstad)」プロジェクトではフラクスタに永住するために何が必要かを100人以上の季節労働者にインタビューしました。東欧からの労働者を誘致することに困難はありません。彼らは給与の良いタラ漁業のために、3,4ヶ月単位で飛行機でやってきます。しかし、20の町に1,300人以下の住民しかおらず、小学校と中学校に火曜児童はわずか90名のフラクスタは、存続に苦労しています。インタビューされた人たちは、自分の配偶者に仕事があるかどうかを永住を決める上で一番重要な要因であると話してくれました。この知見は現在、主要な雇用維持戦略の一環として、労働者の配偶者の雇用確保に焦点を当てるために活用されています。



### 適切なチャイルドケアを探す

#### オーレ、スウェーデン

スウェーデン・オーレの新規移住者支援サービスチームは、家族全員がなるべく早く仕事を見つけられるよう支援しています。未就学児を抱えた女性の一部はチャイルドケアシステムに対する信頼がないために、新たな土地ですぐに(そして安価で)利用可能なチャイルドケアを活用できないでいます。新規移住女性の多くは、知らない女性に子どもを預けることに馴染みのない文化圏から来ています。また、難民としての体験からトラウマを抱え、子どもと離れることに抵抗がある女性もいます。支援チームは女性達と密に働き、彼女達の懸念に繊細に対応してきました。すでにチャイルドケアに慣れている、同じ文化的背景を持つ他の女性達を巻き込むことは、スウェーデンの子育て支援システムへの信頼を構築する一助になりました。

## 目を配る

### 1. 懸念を聞くための安全な場所を提供する

うまくいかなかった場合を想定し、懸念を真剣に受け止めましょう。地域社会のメンバー達が中立的な環境で問題点を提起できる機会を提供することが重要です。

### 素早い変化に対応する

#### セントクラウド、米国

白人が多くを占めるミネソタ州中部のセントクラウドでは、その多くがイスラム教徒であるソマリア人の流入は恐怖心を煽り、地域社会の深い分断を招くことになりました。過去10年で1万人に及ぶソマリア人が人口7万人のセントクラウドに引っ越してきています。地域社会の一部には町の変化のスピードに懸念を抱く人たちがいて、はっきりと声高に自分たちの意見を伝えています。こうした懸念の多くは人種差別や外国人排斥の陰謀論と一緒に、米国で台頭しつつある極右の移民排斥論に後押しされています。

ですがこれはストーリーの一部にすぎません。全体的には、セントクラウドのソマリア人は生き生きと生活しており、一度は息絶えかけた町の経済的社会的再生に一役買っています。ミネソタ予算プロジェクトの2018年の報告5によると、セントクラウドの移民は高い労働参加率と比較的高い中央値所得があると記録されています。<sup>5</sup>

ストーリーテリングは、ソマリア人住民を、地域社会を豊かにする新たな市民として捉え直すのに重要な役割を果たしています。セントクラウドのデイク・クレイス市長や他の高名な地域リー

ダー達はことあるごとにソマリア人住民達の町への貢献を強調しています。また懸念がある市民達には個別に安全な環境で問題を話し合う機会を提供しています。

セントクラウド・タイムスという地元の新聞は、難民や移民にまつわる逸話の真相を突き止める連載を掲載しました。またユナイテッド・クラウド (Unite Cloud) というボランティア団体はコミュニティ・フォーラムやSNSでのキャンペーンを通じて、文化的な緊張を解消し、理解を深める取り組みを行なっています。

「夫婦や家族、私たちを受け入れない人々と話すたび、私は自分が元は難民キャンプで生活していてここに辿り着き、現在は行政学の修士号を取ろうとしていること、32人の従業員を抱えるビジネスを持っていて、妻はプロの助産師であることを伝えます。そうするとみなさん私たちを見て、自分たちと同じだ、となるのです」

— アブディ・ダイサネ、セントクラウドのソマリア系アメリカ人経営者



5. [https://www.mnbudgetproject.org/docs/default-source/default-document-library/minnesota-immigrant-contributions-cd6.pdf?sfvrsn=dc5309e8\\_6](https://www.mnbudgetproject.org/docs/default-source/default-document-library/minnesota-immigrant-contributions-cd6.pdf?sfvrsn=dc5309e8_6)



### 学び

- 配偶者の雇用を忘れないこと。夫婦のうちどちらか一方が充実した仕事に就くだけでは、定住にはつながらない
- 女性が利用しやすいチャイルドケアにアクセスできるようにすること
- 女性を社会的活動に巻き込み、孤立を減らす方法を見つけること



### 学び

- 新規移住者の利点についての議論と、既存の地域社会の人々が抱くかもしれない恐れについての認識とのバランスを取る
- 可能な場合は懸念を抱く地域社会の人々と一対一で会い、彼らの懸念を聴いて解きほぐすこと
- うまくいかなかった場合の計画を用意すること
- 地域社会が抱く恐れを軽減し、対応するためのコミュニケーション戦略を策定すること

## 2. コミュニティの期待を管理する

時には地域社会の人々の期待と、地方都市で新規移住者が経験する現実との間にミスマッチがある場合もあります。現実的な期待を維持し、計画通りにいかなかった時の失望に対応するためには地域社会との継続的な対話が重要です。

### ふさわしい場所を見つける

ミズーラ、米国

ミズーラにきた最初の難民たちが、ほんの数ヶ月後に町を去ることを決めたとき、そこには大きな失望がありました。地元のコミュニティは彼らが温かく受け入れられるよう最善を尽くしましたが、失敗の兆候と捉えられることが起こりました。実際、地域社会のコントロールが及ばないところで複数の要因があり、難民達は他へ移動せざるを得ませんでした。サハラ以南のアフリカから直接やってきた難民の中にはモンタナ州の厳しい冬の寒さを耐えがたいと感じた人もいました。高度な医療ニーズを必要とする数人の子供たちは、ミズーラでは利用できない専門的な医療サービスを求めて引っ越しせざるを得ませんでした。ミズーラに教会がなく、信仰を实践できないことが引き金になった人たちもいました。

ミズーラでの生活に適応することを学び、残った人たちは新しい故郷の困難な部分も受け入れようと努力しました。彼らは自分たちの選択肢を吟味し、コミュニティ意識や就職機会、ミズーラが家族に提供してくれる安全な未来のために多少の犠牲を払うことを決断したパイオニア達です。同国からより多くの人々が到着するにつれ、最初の困難はだんだんと薄れていきます。コンゴ人コミュニティは今や教会を建てるまでに十分な人数を擁しています。経験者たちは新規移住者たちに、暖かい着こなしのコツや深い雪の中での生活の仕方を教えています。同じ言語と文化を共有する人々が近くにいることで、新規移

住者たちはつながっているという感覚を持つより強く持つことができます。

人々が去ることを決めた時にはもちろん悲しみはあります。ですが多くのミズーラの人たちは、自分たちにとってのミズーラがそうであるように、難民たちが自分たちにじっくりくる場所を見つけることが良い定住なのだということを理解するようになりました。

### ボランティアの能力を構築する

フレデリクトン、カナダ

カナダ政府が2万5000人のシリア難民を1年以内に追加で受け入れると約束した時、国中のあらゆる小さな町に民間のコミュニティ支援団体が現れました。難民たちがカナダに到着したペースは、政策決定者たちを含む多くの人々に衝撃を与えました。地域支援プログラムは、当初の資金援助と定住サポートの責任をボランティアグループに与えました。しかし、善意を持ったボランティアたちをサポートするような研修やガイダンスはほとんどないのが現実でした。専門的な定住サポートやリソースから遠く離れたいくつかの小さい町ではこのことが課題となり、スポンサーと難民の期待との間での対立が生じてしまいました。

ニュー・ブランズウィック州では、フレデリクトン多文化教会 (Multicultural Association of Fredericton) が非常勤のコーディネーターを採用し、地域内の小さい町の支援団体と連携することで対応しました。ボランティアたちには文化的謙遜のトレーニングが提供され、支援する難民をいかに力づけ、自立を促すかといったテクニックが伝えられました。



「移民のコミュニティは意思決定が下される場で発言権を持っている必要があります。受け入れられるだけでなく、有権者や選挙に当選した議員としてコミュニティを代表する必要があるのです。私たちは議論のテーブルに乗せる多様なアイデアを持っています」

– アブディ・ダイサネ、セントクラウドのソマリア系アメリカ人経営者



学び

- 新規移住者たちがその町が自分に合っているかどうか判断できる手助けをすること
- 人々が去ることを決断したからといって、それが地域住民のせいではないということを初期の段階から地域社会に伝えておくこと
- 新規移住者を誘致し、歓迎的なコミュニティを作るには時間がかかることを認識すること
- 自分に合った決断をする新規移住者たちの主体性を尊重すること

「新規移住者の  
誘致と定住は、  
地域社会全体と行政が  
協働して積極的に  
動いていく  
必要があります」



# 検討すべき重要な 政策提言

この報告書では、移住を通じて人口増加を目指す地方都市が採用できる、重要な教訓と画期的な戦略を明らかにしました。

全ての取り組みを地域社会が一から主導することが重要ではあるものの、このプロセスをより良くするため、行政にできることもあります。

1.

誘致と定住の取り組みと政策策定のあらゆる部分に、移民や難民の背景を持つ人々を巻き込むこと

2.

行政、地域社会、ビジネスの全レベルを巻き込んだ、場所に根差したアプローチを実施すること。そうすることで、情報やプログラムの分断をなくし、効率性を高め、リソースや知識の共有がしやすくなる

3.

社会的資本の構築と、新規移住者と地域住民のつながりの創出に投資すること

4.

主要なサービスとプログラムの能力を構築し、移民や難民の背景を持つ人々特有のニーズに対応すること

5.

都市で生活する移民や難民と関わるための戦略的アプローチを構築し、地方都市の雇用や生活機会について積極的に売り込むこと

6.

地方都市の雇用主が文化的多様性を持つ労働力を採用し、育成し、維持できるように支援すること

7.

移民の利点や、移民や難民が社会にもたらす貢献を伝えることにリーダーシップを発揮すること。地域社会の合意形成と準備に投資することは、新規移住者の定住を決定する重要な要素になる。



# 謝辞

## 訪問した組織のリスト

### カナダ

- Ignite Fredericton
- Multicultural Association of Fredericton
- Anglophone West School District
- Fredericton Newcomer Partnership Council
- Immigrant Services Association of Nova Scotia (ISANS)
- Canadian Government – Immigration, Refugees and Citizenship Canada
- Australian High Commission, Canada
- Quinte Immigration Services
- Rural Ontario Institute
- University of Guelph
- County of Wellington
- Government of Ontario
- Newcomer Centre of Peel
- County of Grey
- United Way of Bruce Grey
- Arden Language Centre

### 米国

- Lutheran Social Service of Minnesota
- City of St Cloud
- Create CommUNITY
- Unitecloud
- Cultural Bridges, St Joseph
- United Way of Central Minnesota
- Stearns County Health
- Avivo Employment Services, St Cloud
- St Cloud Landlord Engagement Committee
- St Cloud Police Department
- Global Center, St Cloud
- Blooming Kids Child Care Center, St Cloud
- Greater Minnesota Worker Center
- Northway Family Centre
- International Rescue Committee
- City of Missoula
- Soft Landing Missoula
- Job Service Missoula

### ドイツ

- Regionalentwicklung Oberallgäu
- Oberallgäu District Government
- Caritasverband Kempten-Oberallgäu
- Berufsschule Kempten
- IQ-Netzwerk Bayern

### ノルウェー

- Nordland County Government
- Bodø Municipality
- Bodø Red Cross
- Husbanken, Bodø
- NAV, Bodø
- Nordland Research Institute
- Refugee Dormitory, Tverlandet
- Bodø Voksenopplæring Adult Education
- Livsglede for Eldre Retirement Home, Bodø
- Vågan Municipality
- Svolvær Secondary School
- Vestågøy Municipality
- Vestågøy Secondary School
- SALT Consulting (Lofoten)
- Flakstad Municipality

### スウェーデン

- Åre Municipality
- Åre Språkcafé
- Mörsil Språkcafé
- Notvallen Retirement Home, Järpen
- Swedish for Immigrants SFI, Järpen
- Norrmontage
- N-clean
- Åredalens Folk High School

## 終わりに

ウィンストン・チャーチル・メモリアルトラストの皆様、皆様のおかげでこの国際フェローシップを通じて得ることができた経験、知識、人脈、インスピレーションに心から感謝します。オーストラリアの未来に対する皆様の投資は本当に素晴らしいものです。

私の家族、特に夫のニックに。あなたの愛と支援で全てが可能になりました。

ドナ・モスフォードと多文化NSW (Multicultural NSW) のチームの皆さん、私たちのエージェンシーを新しいアイデアが評価され、奨励される場所にさせていただきありがとうございます。メンターであるマーガレット・パイパー、あなたは深い知識と献身的な姿勢でひらめきを与えてくれました。そして私の二人の査読者であるアニー・ハーヴェイとピーター・シャーゴールド教授、私のビジョンを実現するために助けてくれたあなた方の誠実さに感謝します。

カナダ、米国、ドイツ、ノルウェー、スウェーデンでお会いしたたくさんの方々、あなた方の時間と知見、情熱に感謝しています。特にカリン・ブライス、ジェン・バリーレ、ジェローム・リー、ライアン・デスカ、サビーヌ・ヴァイツェンビア、ズデニェク・ドヴォラク、キルステン・スプリングラー・ハスヴォール、ジョア

ン・ウォール・ラロック、マティアス・シェルンドに深い感謝を。あなた方の温かさや寛容さは、地域社会が住みやすい場所であることの生きた証明です。今後も連絡を取り合い、コラボレーションできることを祈っています。

そして最後に、このレポートを読んでくださっている皆さん、地方都市が移民や難民の背景を持つ人々をどのように惹きつけ、受け入れ、引き止めることができるかに関心を持ってくださったことに感謝します。私の研究が、あなた方の町で実践できるアイデアにつながることで、このような実践をしようとしているのがあなた方だけではないことを思い出していただければ幸いです。同様の課題に直面している地域社会は世界中にあり、わたしたちが互いにつながり、学び合うほど、私たちの未来は力強いものになっていきます。

引用方法: Stump, T (2019) ライトフィット: 地方都市に新規移住者を惹きつけ、定住してもらうために, Winston Churchill Memorial Trust of Australia.

(翻訳 石山佳奈)

## 本稿で参照した論文、報告書、記事

Ahmed Mohamoud Elmi, Marina Ghosh & Sasha Oliveira (2017) **Scaling Up Canada's Local Immigration Partnership Model for Proactive Refugee Resettlement**, Balsillie School of International Affairs.

Morton Beiser & Farah Mawani (2002) **Paved with Good Intentions: Canada's Refugee Destining Policy and Paths of Secondary Migration**, Canadian Public Policy.

Wayne Caldwell, Brianne Labute, Bakhtawar Khan & Natasha D'Souza Rea (2017) **Attracting and Retaining Newcomers in Rural Communities and Small Towns**, Municipal World.

Vicki Esses, Leah Hamilton, Caroline Bennett-AbuAyyash & Meyer Burstein (2010) **Characteristics of a Welcoming Community**: <http://p2canada.ca/wp-content/uploads/2011/09/Characteristics-of-a-Welcoming-Community-11.pdf>

European Network for Rural Development (2016) **Migrant and Refugee Integration**: [https://enrd.ec.europa.eu/sites/enrd/files/publi-eafrd-brochure-03-en\\_2016.pdf](https://enrd.ec.europa.eu/sites/enrd/files/publi-eafrd-brochure-03-en_2016.pdf)

Making Grey Bruce Home (2019) **Making Rural Communities Home: A newcomer integration toolkit**: [http://www.ruralontarioinstitute.ca/uploads/userfiles/files/ruralToolkit\\_FINAL\\_web.pdf](http://www.ruralontarioinstitute.ca/uploads/userfiles/files/ruralToolkit_FINAL_web.pdf)

FrameWorks Institute (2017) **Communicating about Refugee Resettlement: A Communications Toolkit for the Minnesota Department of Human Services**, <https://frameworksinstitute.org/toolkits/refugeeresettlement/>

National Working Group on Small Centre Strategies (2007) **Attracting & Retaining Immigrants: A Tool Box of Ideas for Smaller Centres**: <http://www.icavictoria.org/welcome-centre/resources/toolbox-of-ideas/>

Nordregio (2016) **From migrants to workers: Regional and local practices on integration of labour migrants and refugees in rural areas in the Nordic countries**: <http://norden.diva-portal.org/smash/get/diva2:1129282/FULLTEXT01.pdf>

Northern Policy Institute (2018) **Identifying Northern Ontario's Strengths and Weaknesses in the Attraction and Retention of Newcomers**: <https://www.northernpolicy.ca/northernattraction2>

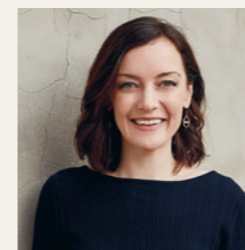
OECD (2018) **Working Together for Local Integration of Migrants and Refugees**: <http://www.oecd.org/publications/working-together-for-local-integration-of-migrants-and-refugees-9789264085350-en.htm>

Margaret Piper (2018) **Refugee Settlement in Regional Areas: Evidence-based good practice**: [https://multicultural.nsw.gov.au/files/Refugee\\_Settlement\\_In\\_Regional\\_Areas.pdf](https://multicultural.nsw.gov.au/files/Refugee_Settlement_In_Regional_Areas.pdf)

The Conference Board of Canada (2009) **Immigrant-Friendly Communities: Making Immigration Work for Employers and Other Stakeholders in Small-Town Canada**: [www.conferenceboard.ca/e-library/abstract.aspx?did=3229&AspxAutoDetectCookieSupport=1](http://www.conferenceboard.ca/e-library/abstract.aspx?did=3229&AspxAutoDetectCookieSupport=1)

UNHCR (2014) **Rural Refugee Resettlement: Secondary Migration and Community Integration in Fort Morgan, Colorado**: <https://www.unhcr.org/5326c7cd9.pdf>

## 著者について



タリア・スタンプはNPO、アカデミア、政府での職務を通じて15年以上にわたり、難民や移民により良い成果をもたらすために活動してきました。コラボレーションを通じて影響力を生み出し、生きた経験を持つ人々が彼らに影響を与える意思決定の中心にいられるようにすることに情熱を注いでいます。

タリアは現在、ウェスタン・シドニー大学の博士課程に在籍し、オーストラリアと日本で、地方に住む難民の社会的インクルージョンに関する研究を行っています。以前は、オーストラリア赤十字社で庇護希望者への支援サービスを提供したり、ニューサウスウェールズ州政府で難民定住制作を策定したりしていました。チャーチル・フェローシップでの研究成果はシドニーに暮らす難民や移民を、ニューサウスウェールズ

の地方都市での雇用機会や生活機会に結びつけることを目的とした政府のプログラム設計に直接反映されています。

タリアはニューサウスウェールズ大学で開発学の修士号（難民と移住）を、フリンダース大学で社会事業学の修士号と学士号（日本語とアジア研究）を取得しています。修士論文では、日本に暮らす庇護希望者たちの対処戦略について研究し、慶應技術大学では客員研究員を勤めた経歴を持っています。

この研究についてより深く議論したい方、公演イベントやプロジェクトのコラボレーションを希望される方は（英語もしくは日本語で）[taliastump@gmail.com](mailto:taliastump@gmail.com) までメールにてご連絡ください。

またこの研究についての詳細は [www.citytocountryproject.com](http://www.citytocountryproject.com) でもご覧いただけます。

“If there is one thing this Fellowship has taught me, it's that out of tough times, compassion, resourcefulness and creativity flourish.”

–Talia

[citytocountryproject.com](http://citytocountryproject.com)

